

平成28年度 茨城大学社会連携センター一年報

茨城大学 社会連携センター
平成29年4月

平成28年度 社会連携センターの活動

1. 基本方針

2. 茨城大学の教育・研究機能と社会連携活動

3. 地域連携

(1) 地域との協働

- ①学内公募プロジェクト ⇨〔資料1〕〔資料2〕
- ②連携協定締結先との共同事業 ⇨〔資料3〕〔資料4〕
- ③「県北研究会」 ⇨〔資料5〕
- ④地域おこし協力隊リーグ ⇨〔資料6〕
- ⑤茨城県北ジオパーク事務局
- ⑥自治体からの受託事業 ⇨〔資料7〕
- ⑦地方創生ネットワークの構築 ⇨〔資料8〕〔資料9〕
- ⑧茨苑祭
- ⑨新聞マルシェ ⇨〔資料10〕
- ⑩県北芸術祭関連プロジェクト ⇨〔資料11〕

⑪エンジン01

(2) 大学の「知」を社会へ発信

- ⑫公開講座、公開授業 ⇨〔資料12〕
- ⑬社会教育主事講習 ⇨〔資料13〕
- ⑭いばらき子ども大学 ⇨〔資料14〕
- ⑮自治体の生涯学習組織との連携
- ⑯国際岡倉天心シンポジウム ⇨〔資料15〕〔資料16〕

(3) 学生の地域活動支援

授業・ゼミ活動、学生主体の活動の支援

- ⑰「学生地域参画プロジェクト」⇨〔資料17〕
- ⑱「学生地域活動発表会」⇨〔資料18〕

4. 産学連携

(1) 地域企業とのパートナーシップ関係構築

- ①研究室訪問交流会 ⇨〔資料19〕
- ②パートナー企業との対話 ⇨〔資料20〕
- ③イベント出展、学生・研究室との連携 ⇨〔資料21〕〔資料22〕

(2) 共同研究の推進

- ④共同研究 ⇨〔資料23〕
- ⑤日立オートモティブシステムズ株式会社との連携 ⇨〔資料24〕

5. 大学を一層ご支援いただくために

- (1) 茨城大学基金の創設
- (2) 同窓会・卒業生とのつながり強化

- ①同窓会総会
- ②ホームカミングデー ⇨〔資料25〕

6. 平成29年度の活動の展望

- (1) 情報発信の強化
- (2) 重点プロジェクトの選定
- (3) 学生ファースト
- (4) さまざまなプラットフォームづくり

* 参考資料

1. 基本方針

◆スローガン 「交流 連携 未来へつなぐ」

社会連携センターは、上記のスローガンを掲げ、大学の持つ多様な資源を活用し、社会のさまざまな方々と協働して、社会の新たな価値創造に向けた活動を推進しています。

◆基本方針

① 学内外の「プラットフォーム」となること

- ・「地域活性化」の、「産官学連携」の、「社会教育」の、…といったさまざまな分野の「プラットフォーム」に。
- ・異なる研究分野の教員が交流する、学部を超えて学生が集える、…そういう「プラットフォーム」に。

② 地域の課題を教育、研究、協働へつなげること

◆目指すもの

- ・自治体、地元企業との対話、交流、協創活動
- ・地域で活動するさまざまな方々と課題に見合ったネットワーク
- ・社会連携活動の「実践」を担う『社会連携センター』
- ・大学と社会との「窓口」機能



◆社会連携活動の実践的組織として

- ・平成28年度は、下記がセンター長・副センター長・部門長として、センター教職員とともに職務にあたりました。

影山俊男 社会連携センター長〔社会連携担当理事〕

副センター長（3人） 西野由希子人文学部教授（地域共生部門長）、安江健農学部教授（生涯学習部門長）、
金野満工学部教授（産学官連携イノベーション部門長）

部門長 北和之理学部教授（知的財産部門長）

准教授 清水恵美子

特命教授 福島健太郎（常勤）、光畑由佳（非常勤）

2. 茨城大学の基本的な機能・役割と社会連携活動

○教育（学生）

- ・たくましい茨大生を育てるために、授業のほか、さまざまな学修機会に、地域社会のみなさまにご支援をいただける仕組みをつくる。

○研究（教員）

- ・大学ならではの研究成果を地域の未来づくりに創造的に活かす。
- ・より良き社会づくりに取り組む教員を支援する。
- ・教員が分野を超えて集える「学内プラットフォーム」を形成する。
（プロジェクト、研究会、サロンなど）

3. 地域連携

(1) 地域との協働

①学内公募プロジェクト

- ・戦略的地域連携プロジェクト ⇒〔資料1〕

教員と自治体が共同で申請する研究プロジェクト。平成28年度は10件を実施。

- ・復興支援プロジェクト ⇒〔資料2〕

平成23年度より実施。データを収集している研究3件を継続し、データを蓄積していく

②連携協定締結先との共同事業

- ・茨城産業会議、茨城県との「第10回 連携講演会」〔平成28年12月9日〕⇒〔資料3〕

テーマ「地方創生 茨城と全国の現場から」。本学社会連携センター顧問で、内閣府シティマネージャーとして全国各地で地域活性化に取り組まれている方たちなどが、基調講演と事例報告、その後、パネルディスカッション。企業や自治体、一般市民など130名に参加いただいた。

- ・連携先自治体の実務担当者との意見交換会〔平成28年12月21日〕⇒〔資料4〕

協定を結んでいる11の自治体の担当者と意見交換。内容など検討しながら今後も継続して開催していく。

③「県北研究会」 ⇒〔資料5〕

- ・学内外の諸分野からの参加者と県北地域の課題をテーマに意見交換や討論を行うサロン型の研究会
- ・平成28年7月から5回開催。各回のテーマは「茨城（県北）の〈食〉のブランディング」「道の駅」など。

（１）地域との協働

④地域おこし協力隊リーグ ⇨〔資料６〕

- ・県内で活動している「地域おこし協力隊」のネットワークづくり、活動の支援、受け入れ先自治体の担当職員等のサポートを目的に、茨城県地域計画課と共同で企画。
- ・平成28年5月18日、本学学生も参加して、1回目の集まりを開催。講演や、意見交換を行った。
- ・夏季休暇中には、茨城県地域計画課の主催で、つくば市北条地区で、地域おこし協力隊と本学学生が合同の研修会を実施。
- ・平成29年1月27日、地域おこし協力隊隊員による活動報告。県内の横断型の報告会として実施した。

⑤茨城県北ジオパーク事務局

- ・社会連携センターは、茨城県北ジオパークの事務局をつとめており、茨城県や参加市町と協力して、事業の運営にあたっている。
- ・平成29年度には再認定の審査を受けることになっている。

⑥自治体からの受託事業 ⇨〔資料７〕

- ・平成28年度は、社会連携センターで自治体から5件の事業を受託した。
- ・「茨城県 RESAS普及促進事業」「常陸大宮市・大館市友好都市事業」などは内閣府による地方創生のための交付金を活用した事業である。

（１）地域との協働

⑦地方創生ネットワークの構築 ⇨〔資料8〕〔資料9〕

・茨城県内の市町村や各地域の地域活性化、地方創生の活動に、茨城大学として貢献していくために、内閣府のシティマネージャーとして担当市町村で活動をされていて、全国の地域活性化の取り組みに通じている5人の方に「地方創生」の顧問を依頼した。この方たちには、社会連携センターのさまざまな企画（シンポジウム、セミナー、研究会）で講師をつとめていただいたり、社連センターの活動への参画や助言をいただいている。

・平成28年度は、茨城大学・茨城県・茨城産業会議で毎年開催している3者連携の「講演会」のテーマに「地方創生」が選ばれたことから、顧問の方たちに講師を依頼した。また、その際に出された来場者の希望を受ける形で、「地方創生セミナー」を開催した。

⑧茨苑祭

・茨城大学学園祭「茨苑祭」の際には、茨城大学同窓会連合会総会やホームカミングデーなどとともに、茨城大学と連携協定を結んでいる自治体等が農産品等を販売したり、市のPRをしたりする出展を行っていて、毎年そのコーナーを目当てに来場される市民も多い。

・平成28年度は、常陸大宮市、鹿嶋市、北茨城市、常総市が出展を行い、鮎の塩焼き、ピーマン等じまんの農産品の販売のほか、「ひたまる」「千姫さま」などのゆるキャラなども登場し、市のPRを行った。

⑨新聞マルシェ ⇨〔資料10〕

・茨城新聞社の協力で、本学図書館に全国の地方紙を読むことができる「新聞マルシェ」コーナーが設置されている。

・この「新聞マルシェ」に関連して、シンポジウム等を毎年開催してきたが、平成28年度は、新聞に親しみ、「新聞の読み方」を学ぶワークショップを企画した。本学学生のほか、那珂高校の生徒が参加し、茨城新聞社の記者にアドバイスを受けた。

（１）地域との協働

⑩県北芸術祭関連プロジェクト ⇨〔資料１１〕

・平成28年度茨城県主催「県北芸術祭」と関連し、茨城大学の教員が進めるプロジェクトとして平成27年度からの継続4件を選定した。

⑪エンジン01

・本学と連携協定を結んでいる水戸市からの要請を受け、平成29年2月17日に開催された「エンジン01 オープンカレッジ in 水戸」（エンジン01文化戦略会議）の会場として、本学水戸キャンパスを提供した。社会連携センターは本学における担当部局として、準備、実施に協力した。

3. 地域連携

(2) 大学の「知」を社会に発信

⑫公開講座、公開授業 ⇨〔資料12〕

- ・平成28年度も教員による一般市民向けの「公開講座」（前期14講座、後期9講座）と、申し込んだ市民が学生といっしょに授業を受講する「公開授業」（前期36科目、後期23科目）を実施した。
- ・このほかに、連携協定先の市町村で企画する「市民大学講座」や、茨城県内各地域の生涯学習センターでの講座や事業、さまざまな分野での講演依頼などについて、開講への協力、本学教員が講師をつとめるなど、相談に対応し、協力を行っている。

⑬社会教育主事講習

- ・平成28年度と平成27年度の「社会教育主事講習」を本学が担当して実施している。平成28年度は、71名が受講した。
- ・「第2回 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」〔平成28年10月15日、16日〕 ⇨〔資料13〕

茨城県および近県で活動されている社会教育主事、教員、教育関係者が、2日間でのべ500名以上参加され、社会教育主事講習と合わせ、生涯学習・社会教育において重要な交流の機会になっている。

⑭いばらき子ども大学 ⇨〔資料14〕

- ・NPO法人等からなる「いばらき子ども大学実行委員会」、茨城県教育委員会と社会連携センターの主催で、小学生が研究者や専門家から講義を受ける「いばらき子ども大学」を実施している。
- ・平成28年度は、6月25日に茨城大学講堂で開講式を行い、その後、水戸・阿見・日立の各キャンパスなども会場に各地区の授業などを実施した。

(2) 大学の「知」を社会に発信

⑮自治体の生涯学習部門との連携

- ・茨城県や各自治体の教育委員会、県内の生涯学習センター、市民協働課など市民講座等を担当する市町村の担当課からのさまざまな相談や問い合わせに応え、本学の教員を講師や委員として派遣するなどしている。
- ・生涯学習、社会教育と、介護や福祉、地域活性化、まちづくりなどの分野が重なるようになって来ており、社会連携センターでも生涯学習部門と地域共生部門が共同で検討や対応にあたることが増えている。

⑯国際岡倉天心シンポジウム ⇒〔資料15〕〔資料16〕

- ・国内外の天心研究者、天心ゆかりの方々、美術界、一般市民が参加。協賛パートナーのご支援をいただき、六角堂ほか天心遺跡を管理する茨城大学ならではの地域連携シンポジウムを開催した。
- ・平成28年9月3日、水戸市内のホテルを会場に、「国際岡倉天心シンポジウム 2016」を開催。国内外の研究者による講演、パネルディスカッションを行い、約350名が参加した。
- ・平成28年9月4日、六角堂など天心ゆかりの史跡を巡るツアー「北茨城市 五浦探訪」を実施。約100名の参加者に、4つのグループに分かれていただいて各所を案内した。五浦美術文化研究所内・旧天心邸では「珈琲茶席」を提供、その後、ハイライト公演「天心オペラ《白狐》」を鑑賞いただいた。
- ・北茨城市の地域の方たちと茨城大学との協働事業を進めた。学生たちも参加し、サザコーヒーのご協力のもと、岡倉天心にちなんだ「五浦コヒー」の開発を行った。

3. 地域連携

(3) 学生の地域活動支援

⑰「学生地域参画プロジェクト」 ⇨〔資料17〕

- ・社会連携センターでは「学生地域参画プロジェクト」によって、学生たちの活動を支援している。
- ・平成28年度は、10グループを選定し、活動の途中で助言等を行いながら実施した。
- ・学生たちは「学生地域活動発表会」などへ参加、最終報告会（審査会）のプレゼンにより最優秀プロジェクト1件、優秀プロジェクト2件が茨城大学学生表彰に推薦され、表彰を受けた。

⑱「学生地域活動発表会」 ⇨〔資料18〕

- ・授業やゼミなどのほか、プログラム、プロジェクト、部活やサークル等での活動など、さまざまな形で地域で活動する全学の学生たちが集まり、活動報告を行う発表会をはじめて企画し、平成28年12月21日、「茨城大学学生地域活動発表会2016 〈はばたく！茨大生〉」を開催した。
- ・自治体・企業・市民の方たち、高校生、本学の学生や教職員が参加し、第1部では8組が口頭発表による報告を行った。第2部ではポスターセッションのスタイルで、来場の方たちと学生たちが直接お話をし、交流した。

4. 産学連携

(1) 地域企業とのパートナーシップ関係構築

①研究室訪問交流会 ⇨〔資料19〕

- ・茨城産業会議との共催で、研究室訪問交流会を企画している。
- ・工学部は毎年の開催で、平成28年度は12月20日に開催、昨年度（103名）を上回る参加者（127名）があった。
- ・理学部は隔年で開催しており、平成28年度は3月3日に開催。はじめての試みとして、「ポスター懇談会」に人文学部から教員やゼミなど5グループが参加した。

②パートナー企業との対話 ⇨〔資料20〕

- ・パートナー企業（約50社）と対話や交流を行っており、大学経営、学生教育に対する意見や要望などをいただいている。外部からの第三者評価として受けとめ、対応していくように努めている。
- ・本学学生のインターンシップ派遣受け入れや、PBL授業への協力などもいただいている。
- ・茨城産業会議との共同事業ほか、「研究室訪問交流会」「学生の地域活動発表会」などさまざまな企画、事業についてご案内し、ご参加いただいて、現在の大学や学生の状況を知っていただく機会にしている。

③イベント出展、学生・研究室との連携 ⇨〔資料21〕〔資料22〕

- ・本学教員の研究成果を発表するため、首都圏北部4大学連合（4u）主催のものを含め、各種のイベントに出展している。JST、NEDO主催による国内最大規模の産学イベント「イノベーションジャパン2016」や、「めぶきFGものづくり企業フォーラム2017」など、平成28年度もさまざまなイベントに参加した。
- ・学生や研究室に呼びかけ、学生・院生たちにも産学連携のイベントに参加してもらう機会を提供している。

4. 産学連携

(2) 共同研究の推進

④共同研究 ⇒〔資料23〕

- ・ 共同研究推進のため、企業が抱える技術ニーズを把握し、教員の積極参画を促すよう努めている。
- ・ 平成28年度は共同研究の件数、金額共に平成27年度の実績をうわまわっている。

⑤日立オートモティブシステムズ株式会社との連携 ⇒〔資料24〕

- ・ 平成28年8月8日、本学と日立オートモティブシステムズ株式会社（日立AMS）は「連携事業実施協定」を締結した。
- ・ 連携事業の内容として、（1）共同研究及び委託研究等の研究活動とそのための協力及び支援、（2）研究者や学生の派遣を含む学術交流と人材育成の推進、（3）その他本協定の目的に資する事業、に取り組むこととしている。
- ・ 新たな共同研究のテーマの発掘のため、ワークショップなどを開催し、平成29年度からの共同研究に向けて準備を進めている。

5. 大学を一層ご支援いただくために

(1) 茨城大学基金の創設

- ・平成16年9月に創設された「社会連携事業会」の寄付受入れ機能を引き継ぎ、平成28年9月に寄付受入れを開始した。
- ・平成29年度からはファンドレイザーを配置し、本格的な渉外活動を展開していく。
- ・毎月の継続寄附制度や古本募金など、寄附方法の充実を図っていく。

(2) 同窓会・卒業生とのつながり強化

①同窓会総会

- ・平成28年11月12日、茨苑祭1日目に、茨城大学同窓会連合会総会を開催した。ホームカミングデーを共催で実施することや茨城大学基金への協力などが審議され、承認された。
- ・今後も、大学と同窓会連合会及び、各同窓会との連携推進を継続して進め、同窓生や同窓会組織とのネットワークを広げていく。

②ホームカミングデー ⇨〔資料25〕

- ・同窓生（卒業生）の方たちに大学に帰ってきていただく企画「ホームカミングデー」を、平成26年度の試行を踏まえ、平成27年度から本格的に実施している。
- ・平成28年度は、27年度と同様に学園祭に合わせて開催した。また、同窓会連合会総会と同日開催とすることで定期的なイベントとしての定着を図った。

5. 平成29年度の活動の展望

(1) 情報発信の強化

- ・平成29年度は、ホームページのリニューアルなどを行い、社会連携センターの活動、茨城大学の社会連携活動についての情報発信力を高める
- ・茨城大学の教員や学生が自治体や産業界等と取り組んでいる地域連携活動の情報、共同研究のための情報など、さまざまな情報を収集・整理し、データベースやアーカイブとして提供できるような仕組みをつくる
- ・研究や活動など、教職員・学生のさまざまな取り組みについて、冊子やブックレットなど新しい形式での情報発信の方法を検討し、展開を考えて行く

(2) 重点プロジェクトの選定

- ・平成28年度に社会連携センターで企画し開催した「研究会（県北研究会）」を継続して企画する。学外からの参加者、学内からの教職員の参加がより広がるよう、研究会の名称やテーマ設定、形式などについて工夫する。
- ・センターが平成29年度に力をいれて取り組むテーマ・活動を「重点プロジェクト」と位置づけ、さまざまな方たちと協働で取り組みを進める

(3) 学生ファースト

- ・より多くの学生たちを支援できるような仕組みと、情報共有、ネットワーク化を進める。
- ・プロジェクト等で活動する学生たちに呼びかけて、センターの活動を推進する仲間として協働していく。
- ・社会連携センターの事業や企画、運営面にも参画してもらい、学生たちとともに活動を進める社会連携センターならではのスタイルをつくっていく

(4) さまざまなプラットフォームづくり

- ・引き続き、いろいろな分野の方々とのネットワーク構築につとめ、社会と大学をつなぐ窓口、プラットフォームとしての役割を果たしていく
- ・連携協定先の自治体の中で、特にキャンパスのある水戸市・日立市・阿見町との連携を強化する。また、高校や高校生との連携の取り組みを増やしていく

平成28年度 戦略的地域連携プロジェクト採択一覧(10件)

資料 1

No.	事業責任者			プロジェクト名	金額
	自治体等連携先	茨城大学			
		所属	氏 名		
1	茨城町	人文学部・教授	西野 由希子	寺子屋プロジェクト	348,000
2	茨城県生活協同組合連合会 茨城県生活環境部	人文学部・教授	井上 拓也	高齢者消費者被害防止のための連携の推進と見守り力の向上に関する研究	180,000
3	茨城県教育委員会義務教育課	教育学部・教授	松川 覚	続・いばらき理科教育支援プロジェクト	394,000
4	高萩市市民生活部危機対策課	教育学部・教授	乾 康代	空家利活用体制整備支援事業	302,000
5	茨城県水戸教育事務所	教育学部・教授	三輪 壽二	不登校児童生徒支援事業「ほっとステーション活動」	380,000
6	那珂市教育委員会	教育学部・准教授	丸山 広人	児童生徒総合支援事業「麦の穂プロジェクト」	399,000
7	茨城町	教育学部・准教授	石島 恵美子	ラムサール条約登録湿地 涸沼のワイズユース等に関する事業	399,000
8	茨城県土木部	工学部・准教授	原田 隆郎	地域に根付いた高度なメンテナンス技術者の育成と人的ネットワーク形成	275,000
9	水戸市公園緑地課	工学部・准教授	藤田 昌史	地域連携による千波湖のアオコ抑制プロジェクト	450,000
10	茨城県農林水産部農地局農村環境課	農学部附属FS教育研究センター・教授	小松崎 将一	水鳥と共生する新しい霞ヶ浦のレンコンづくりに関する研究	362,000

【実施した効果や今後の対応について】

- ・本プロジェクトについては、教員と自治体とが取り組むプロジェクトとして、継続してきており、成果があがっている。
- ・募集の際に審査を行って採択しているが、自治体と共同で企画されるものなので、できるだけ多くのプロジェクトをサポートできるのが望ましい。また、自治体側の予算と、本助成の双方を組み合わせるためには、決定時期等に改善の余地がある。
- ・以上を含め、「戦略的地域連携プロジェクト」の募集方法などについて、見直しを行っており、平成29年度から変更して行く予定である。

平成28年度 茨城大学復興支援プロジェクト採択一覧(3件)

資料 2

No.	部局等名	研究代表者氏名	研究課題名	金額
1	理学部	北 和之	福島第一原子力発電所事故により環境中に放出された放射性セシウムの大気再浮遊プロセスとその影響の解明	200,000
2	農学部	浅木 直美	牛ふん堆肥の連用が土壌の交換性セシウム動態と作物移行率におよぼす影響	100,000
3	フィールドサイエンス教育研究センター（農学部）	小松崎 将一	霞ヶ浦流域生態系における放射性物質の環境影響評価と対策技術開発	300,000

【実施した効果や今後の対応について】

- ・2011年の東日本大震災後、復興支援のためのプロジェクトを支援するために設けたカテゴリであり、現在は、データ等を継続して収集するプロジェクト3件をこの名称で支援している。
- ・今後も、学術的に必要な時期までは支援を継続し、研究結果を社会に還元するようにしていきたい。

茨城大学は、平成28年12月9日（金）、茨城県および茨城産業会議との連携による講演会「地方創生 茨城と全国の現場から」を三の丸ホテルにて開催し、行政関係者や企業、大学生や一般市民など130名が参加した。

本講演会は、茨城大学、茨城県、茨城産業会議の3機関により毎年実施しており、本年度で10回目の開催となる。これまでは、気候変動やエネルギー問題等をテーマとしておりましたが、今回は、近年の急速に進む人口減少という重い課題に直面する中で、各地域が、自らこの課題への取り組みを行っていくという「地方創生」が推進されているなかで、茨城県での地方創生、地域活性化の取り組みの現状等について共有し、全国の事例なども参照しながら、茨城での今後の取り組みについて意見交換を行う場とした。

三村信男茨城大学長の開会挨拶に続き、深谷 信介氏（博報堂ブランドデザイン副代表、スマート×都市デザイン研究所所長等）から「地方創生、茨城と全国の現場から」をテーマに基調講演が行われ、その後、山本 慎一郎氏（一般社団法人RCF）、光畑 由佳氏（有限会社モーハウス代表取締役）、東 大史氏（一般社団法人村楽理事）および西野 由希子氏（茨城大学社会連携センター副センター長）から事例報告が行われた。

続いて、西野由希子氏による進行のもと、来場者からの質問や意見に対して回答する形で、基調講演講師および事例報告者によるパネル討論が行われた。会場からは、各発表者が活動している地域での事例などについての質問が寄せられ、登壇者と来場者の中で活発な議論が交わされた。



深谷 信介氏による基調講演



パネル討論の様子①



パネル討論の様子②

【実施した効果や今後の対応について】

- ・終了後に回収したアンケートでは、講演会全体について「非常に満足」「満足」という方が82%で、「事例の紹介が非常に良かった」「自身の活動に取り入れていきたい」「長く続けてほしい」などの意見をいただいた。
- ・「できればもう少し時間をかけて聞きたかった」「事例報告に長く時間をかけてほしい」というご意見もあったので、社会連携センターでは、2月3日に「地方創生セミナー」を企画し、本講演会のパネリストの方4名とほか2名の方に8～20名の少人数でのセッションを持っていただく形のセミナーを行い、ご意見にお応えした。
- ・3者での連携講演会については、2月に茨城県、茨城産業会議、茨城大学の担当者が集まり、本講演会の成果をふまえて、次年度はどのようなテーマで講演会を企画していくか、意見交換を行った。今後、3者により連携を強め、その後につながるような企画をしていけるよう、次年度に向けて準備を開始している。

全国の地方創生の 現場から、 茨城の未来へ

急速に進む人口減少という重い課題に直面する中、各地域が、自らこの課題への取り組みを行っていくという「地方創生」が推進されています。

茨城県内と全国の「現場」で、どのような取り組みが行われているか、具体的な話をもとに、茨城の未来への新しい展開につながるような議論を行うことを目的としています。

PROGRAM

開会	13:30～
《挨拶》	茨城大学長 三村 信男
基調講演	13:40～
地方創生、茨城と全国の現場から	
博報堂ブランドデザイン副代表、スマート×都市デザイン研究所所長 博報堂ソーシャルデザイン副代表、内閣府シティマネージャー 〔茨城県桜川市参与、つくばみらい市参与、鳥取県日野町参与〕	深谷 信介
事例報告	14:05～
① 東北と全国での官民連携コーディネート	
一般社団法人RCF 内閣府シティマネージャー〔奈良県明日香村〕	山本 慎一郎
② みんなが心地よい働き方 企業と自治体との連携	
(有) モーハウス代表取締役 茨城大学社会連携センター特命教授	光畑 由佳
③ 定住か、インパクトか。 地域おこし協力隊等の外部人材を巡る動向	
一般社団法人村楽 理事 内閣府シティマネージャー〔北海道奈井江町〕	東 大史
④ みんなでデザインするまちづくり 市民+大学+自治体+	
茨城大学人文学部教授・社会連携センター副センター長 内閣府シティマネージャー〔茨城県常陸大宮市〕	西野 由希子
休憩	14:45～
パネル討論	15:00～
〔進行〕西野 由希子 〔パネリスト〕深谷 信介 / 山本 慎一郎 東 大史 / 光畑 由佳	
閉会	16:20

平成28年12月9日〔金〕13:30～16:20
三の丸ホテル 〒310-0011 茨城県水戸市三の丸2-1-1 Tel.029-221-3011
水戸駅北口より徒歩2分〈公共交通機関のご利用にご協力願います。〉

どなたでもご参加いただけます

主催：茨城大学・茨城県・茨城産業会議

参加費 無料
〔申込不要〕



平成28年度 茨城大学と連携協定先自治体との実務者間意見交換会

12月21日（水）、本学と連携協定を締結している自治体およびCOC事業において連携している自治体の実務担当者、11自治体（茨城県、高萩市、日立市、常陸大宮市、東海村、水戸市、茨城町、鹿嶋市、阿見町、大洗町、阿見町）から18名の方にお集まりいただき、社会連携センター研修室において意見交換会を開催した。

出席者の自己紹介の後、影山理事（社会連携担当）・社会連携センター長よりセンターの活動状況についての報告、内田学長特別補佐（COC・地域連携担当）よりCOC事業採択から現在までの取組みの報告、米倉副学長（広報・地方創生担当）より地方創生推進室における「茨城地域づくり大学・高専コンソーシアム」についての報告が、それぞれあった。

引き続き、各自治体からは「住みよいまちづくり」を進めるにあたり、特に重点をおいて取り組まれている事例が紹介され、その後、意見交換を行った。



【実施した効果や今後の対応について】

- ・今回は、本会議の終了後の時間帯に「学生地域活動発表会」が開催されたので、来学された自治体職員の方たちにそちらにも参加していただくことができた点はよかったが、本会議の時間設定が短く、十分な意見交換ができなかった点が反省点であり、出席された方からも同様のご意見をいただいている。
- ・社会連携センターでは、今後も年に1回程度、このような意見交換会を開き、連携協定に基づく活動状況の報告や確認、新しい動向等の情報交換、出席者による意見交換などを行う。
- ・当センターの年間の活動予定表を作成し、新年度開始時に、自治体を訪問するなどして、説明を行い、双方で活かしたい。
- ・協定先の内、特に、キャンパスのある水戸市・日立市・阿見町とは、個別に協議の場を設け、より連携活動を進めたい。

「茨城大学と連携協定先自治体との実務者間意見交換会」概要

1. 経緯、趣旨

- ・本学では、平成24年度まで、地域連携推進本部が、大学間協定を結んでいる連携協定先自治体と、近況報告や意見交換を行う場として「茨城大学と連携協定先自治体との実務者間意見交換会」を開催していた。また、平成26年10月8日（水）に、COC事業において連携先（自治体及び企業等）15箇所と「茨城大学COC事業連携機関連絡会」を開催し、COC事業の説明や意見交換等を行っている。
- ・社会連携センターでは、年に1回程度、「茨城大学と連携協定先自治体との実務者間意見交換会」を開き、連携協定に基づく活動状況の報告や確認、新しい動向等の情報交換、出席者による意見交換などを行って、よりよい連携活動の展開につなげていく。

2. 参加対象自治体・参加者

- ・本学と連携協定を締結している自治体（※1）、COCにおいて連携している自治体（※2）

※1 平成28年度現在は、以下の通り。

茨城県、及び、県内8市町村（高萩市、日立市、常陸大宮市、東海村、水戸市、茨城町、鹿嶋市、阿見町）

※2 大洗町、常陸太田市

- ・参加者は、各自治体の「実務担当者（係長）」1～2名とする。

3. 大学側出席者

- ・社会連携センター長、副センター長、COC統括機構副機構長、センター所属専任教員、COC所属専任教員、特命教授、部長、課長、担当職員
- ・陪席者その他は、各回開催の際に検討する

4. 平成28年度の開催

- | | |
|--------|--|
| (1) 日時 | 平成28年12月21日（水）13:00～14:00 |
| (2) 場所 | 茨城大学 社会連携センター3階研修室（水戸市文京2-1-1） |
| (3) 内容 | 1) 自己紹介
2) 社会連携センターの活動報告
3) 連携活動に関する意見交換
4) その他 |

※本会終了後、「茨城大学学生地域活動発表会2016〈はばたく！茨大生〉」（14:30～）に参加いただく

平成28年度「県北研究会」

資料 5

【概要】
県北地域を中心に茨城県内の課題などをテーマに、本学の教職員、学外の専門家の方などに集まっていただき、自由な雰囲気意見交換を行うサロンスタイルの研究会として企画している。
毎回のテーマに応じ、学外からは、企業などの方、銀行やシンクタンク・研究所の方、県や市町村など自治体の職員、NPO法人や地域活動団体の方、デザイナーや伝統工芸の職人、フリーライターなど、さまざまな方にご参加いただいている。

	日時	テーマ	講演	参加者数
第1回	平成28年7月1日(金)	はじめに この会の趣旨、経緯について 今後のテーマについて	社会連携センター 西野 由希子	学外13名 学内16名
第2回	平成28年10月4日(火)	秋田県内と茨城県内の市町村の連携	筑波銀行 渡辺 一洋 様	学外10名 学内10名
第3回	平成28年11月16日(水)	茨城(県北)の〈食〉のブランディングについて	フードアナリスト 藤原 浩 様	学外13名 学内10名
第4回	平成29年1月27日(金)	地域おこし協力隊について [「地域おこし協力隊リーグ」と合同で開催]	地域おこし協力隊 内閣府シティマネージャー 東 大史 様 千田 良仁 様	学外37名 学内 8名
第5回	平成29年3月1日(水)	道の駅について	茨城大学(農学部) 福与 徳文教授 道の駅美和 堀江 克己様 河西和文様	学外15名 学内11名



第1回県北研究会より



第3回県北研究会より



第4回県北研究会より



第5回県北研究会より

【実施した効果や今後の対応について】

- ・今年度は、毎回のテーマは設定したが、全体では方向性を狭くせず、参加者の方たちの意見交換などを通して、次第に、共通する問題意識などを見出してきた。
- ・次年度からは、「共同研究」等に展開するようなテーマ設定を行うと共に、研究会の名称から「県北」をはずし、茨城県内のテーマを全体として扱っていくことを検討している
- ・学内の教職員に対しては今後も自主的な参加を呼びかけるとともに、学部等で行われている研究会活動との連携も図りたい。

【茨城大学】「地域おこし協力隊」と学生らの合同研修会

茨城大学は、5月18日（水）、茨城県内で活動している「地域おこし協力隊」のメンバーらと同大の学生とが一緒になって地方創生について学ぶ研修会を開催した。

「地域おこし協力隊」は、都市部から地方への移住者に対して、自治体が「地域おこし協力隊員」として地域のプロモーションや住民の生活支援などの業務を一定期間委嘱することで定住促進を図る取り組みで、茨城県内でも多くの隊員が活動している。今回の同大での研修会は、茨城県内の各市町村で活動する隊員同士の所属自治体の枠をこえた連携を強めるとともに、共通のスキルや意識を高めることを企図し、茨城県地域計画課の職員と茨城大学が相談して実現した。

研修会は、同大文学部の授業の機会を活用して行われ、地域おこし協力隊員や自治体職員と、学部生・大学院生とが一緒に学びあう場となった。前半はグループディスカッション形式で参加者同士の理解と交流を深め、その後は大手広告代理店から内閣府シティマネージャーとして茨城県内の2つの市町村に派遣されている深谷信介氏が、地方創生総合戦略策定に関わった自身の経験も踏まえ、シティプロモーションの方法や考え方について講義を行った。参加した地域おこし協力隊員からは、「これまで他の自治体の隊員と交流する機会がほとんどなかったので、良い機会になった。他の自治体と比べることで所属する自治体の良さ、改善点がみつかるきっかけになると思う」といった感想が聞かれるなど、大学におけるこうした事業へのニーズが窺えた。

今回の研修会のコーディネートを担当した同大社会連携センター副センター長の西野由希子・人文学部教授は、「外部の視点をもちながら地域に深く関わる『地域おこし協力隊』は、地域に埋もれがちな重要な課題に気づかせてくれる存在として、大学としても注目してきた。今回の研修会を契機に、大学をハブとしてネットワークを強化し、交流や研修の場をつくっていきたい」と話している。



研修会の様子

「茨城県地域おこし協力隊リーグ：2016 年度活動報告会・意見交換会」&

「第 4 回県北研究会」実施報告

概要：茨城大学社会連携センターは、平成 28 年度より、茨城県地域計画課と連携をしながら茨城県内「地域おこし協力隊」の活動や受け入れ自治体の職員の方たちのサポート、地域おこし協力隊と本学学生との合同研修会の実施などを行っている。

茨城県地域計画課や、地域おこし協力隊の方たちの意見、要望をお聞きしながら、企画などを行っていく予定であり、その際に「ネットワーク」「つながり」というような意味で「茨城県地域おこし協力隊リーグ」という名称を使用することとした。

例年、年度末には、各自治体や各地域で、地域おこし協力隊の活動報告会などが開催されるが、今回は、県内自治体の地域おこし協力隊の方たちに一同に集まってもらい、現在の活動状況などの報告や相互に意見交換する場を設け、今後の活動に役立ててもらうことを目的にこの企画を実施した。

実 施 日	平成 29 年 1 月 27 日（金）
時 間	14 時 00 分～17 時 20 分 天気：晴れ
場 所	社会連携センター 研修室（3 階）、ミーティングルームⅢ（3 階） RoomI（2 階）
司 会	社会連携センター副センター長 西野由希子
講 師	一般社団法人「村楽」理事、内閣府シティマネージャー 茨城大学社会連携センター顧問 東 大史 氏 一般社団法人「村楽」理事、内閣府シティマネージャー 皇学院大学准教授 千田 良仁 氏

センター長挨拶	理事（社会連携）・社会連携センター長 影山 俊男
概要説明	社会連携センター副センター長 西野 由希子
閉会挨拶	社会連携センター副センター長 西野 由希子
参加者数	45 名
	学内 8 名
	地域おこし協力隊 14 名
	自治体・企業等 11 名
	県北研究会 12 名



【実施した効果や今後の対応について】

- ・今年度は、2 回の企画のほか、茨城県地域計画課主催の地域おこし協力隊の研修（1 泊 2 日、つくば市北条）に本学学生が参加した。地域で活動している学生と地域おこし協力隊は、意欲、活動内容、活動のときにぶつかる問題点などに共通する部分もあり、ともに地域で動くパートナーとなることも多い。各回のアンケートでは、このような場の継続を希望する意見が多いので、平成 29 年度も企画を行ってサポートを続けたい
- ・自治体職員も、講師の講演内容、他自治体の隊員の活動状況や受け入れ自治体個別の状況がわかること、率直な意見交換ができることを評価・歓迎しており、大学だから提供できる貴重な機会となっている。

「茨城県地域おこし協力隊リーグ：

2016 年度活動報告会・意見交換会」

& 「第4回 茨城大学県北研究会」

開催日 平成29年1月27日（金）

会 場 茨城大学 社会連携センター

14：30 開会

挨拶 茨城大学社会連携センター長 影山俊男

講師の紹介

14：40 茨城県と全国の地域おこし協力隊について 西野由希子

本日の講師によるレクチャー 東 大史さん、千田良仁さん

15：10 地域おこし協力隊「活動報告」

稲敷市、茨城町、大洗町、高萩市、筑西市、常陸大宮市 の隊員から

16：00 （休憩・会場移動）

16：10 意見交換

A-1 @研修室〔3階〕

A-2 @ミーティングルームⅢ 〔3階〕

B @Room Ⅰ(アイ) 〔2階〕

17：00 自由懇談 @研修室

（17：20 終了予定）アンケートにご協力下さい

○講師・助言者

東 大史さん （一社）村楽理事、内閣府シティマネージャー〔北海道奈井江町〕、
茨城大学社会連携センター顧問

千田良仁さん （一社）村楽理事、内閣府シティマネージャー〔岩手県久慈市〕、
皇學館大学准教授

○本日参加している「地域おこし協力隊」

稲敷市、茨城町、大洗町、高萩市、筑西市、常陸大宮市、
日立市、城里町

社会連携センター受託事業

No.	年度	業務名・委託先	金額(円)	内容
1	平成28年度	「RESASを活用した政策アイデア講座開催」業務委託 依頼先:株式会社 常陽産業研究所	1,000,000	地方創生の推進には地域住民の参画が重要である。地域課題の解決のために有益であり有効なツールとして公開されている「地域経済分析システム (Regional Economy Society Analyzing System) の使い方とこれを活用した政策提案の作り方について、市町村職員、県民、NPO法人や教育機関等に勤める方々、学生を対象にした研修を行い、普及促進を図る。
2	平成28年度	常陸大宮市・大館市産品開発等調査研究業務委託 依頼先:常陸大宮市・大館市友好都市推進協議会	1,990,872	常陸大宮市と大館市が締結した友好都市協定の趣旨に基づき、歴史や文化、伝統工芸、産業など、様々な特色ある地域資源を活用し融合させて新製品の開発や、地場産業や観光産業の更なる活性化を図る。
3	平成28年度	平成28年度「御前山・那珂川おもてなしガイド養成講座」委託業務 依頼先:御前山・那珂川広域連携協議会	935,345	常陸大宮市及び城里町の「御前山・那珂川」地域において埋もれている潜在的な観光資源を他分野において有効に活用し、魅力ある地域を創造することで、観光誘客及び交流人口の増加を図るために地域を案内する観光ガイド養成講座を実施し、基盤となる人材の確保・養成を目的とする。
4	平成28年度	ひたマルシェ交流事業調査研究業務委託 依頼先:常陸大宮市	493,560	常陸大宮市内で生産・製造された農畜産物等を、道の駅常陸大宮等を核として、広くPRするため、消費者等ニーズの把握と供給体制のミスマッチを明確にし、今後の観光誘客と農業や製造業、商業の活性化に寄与することを目的とする。
5	平成28年度	起業サポート事業調査研究業務委託 依頼先:常陸大宮市	991,224	常陸大宮市は農業を中心にさまざまな産業・伝統産業もあるが特徴的な産業があるとは言えない。そのために力を入れるべき産業分野、企業に適する事業等を調査研究・分析し、その結果をもとに提案を受け、「しごとづくり」を進め、起業のサポートを行うことを目的とする。

【実施した効果や今後の対応について】

- ・内閣府の地方創生交付金などの申請では「産官学金労言」の各分野が連携して事業にあたることを求めており、特に、大学との連携は期待されている。今年度受託を受けた5事業はいずれも地方創生交付金の事業である。
- ・県のRESAS事業は単年度の計画とのことで、RESASを活用して政策を考えていくような講座等は今後、大学として開講することも検討する。
- ・他の事業は5年計画の1年目であり、来年度以降、予算を伴って事業の委託を受けるかどうかは未定だが、内容に関しては継続して関わることになる予定である。

茨城大学社会連携センター顧問一覧

【地方創生】

氏 名	任期	所属	派遣市町村
アズマ タイシ 東 大史	平成28年8月1日～ 平成30年3月31日	一般社団法人村楽	北海道奈井江町
アベ タカシ 阿部 剛志	平成28年9月1日～ 平成30年3月31日	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部公共経営・地域政策部	新潟県・粟島浦村
フカヤ シンスケ 深谷 信介	平成28年9月1日～ 平成30年3月31日	株式会社博報堂ブランドデザイン、スマート×都市デザイン研究所、博報堂ソーシャルデザイン副代表	桜川市 つくばみらい市 鳥取県日野町
マルヤマ タケシ 丸山 武志	平成28年9月1日～ 平成30年3月31日	日本総合研究所	滋賀県米原市
ヤマモト シンイチロウ 山本 慎一郎	平成28年8月1日～ 平成30年3月31日	一般社団法人RCF	奈良県明日香村

【茨城県北ジオパーク】

氏 名	任期	備考
ナガモリ キヨシ 永盛 清	平成28年9月27日～ 平成29年3月31日	茨城県北ジオパーク担当

「地方創生セミナー」実施報告書

概	要	全国の「現場」で地域活性化の取り組みを推進されている6名の講師（うち4人は社会連携センター「地方創生」顧問）にお越しいただき、セミナーを開催した。第1部は講演、第2部はテーマに沿った少人数の「テーマセッション」で具体的な取り組みに関して全国の事例などをもとに意見交換を行い、講師から助言をいただいた。
実 時 場	日 間 所	平成29年2月3日（金） 13時30分～17時20分 天気：晴れ 図書館 ライブラリーホール・セミナーホール（3階）、 グループ学習室（2階）、インフォメーションラウンジ（1階）
司 講	会 師	社会連携センター副センター長 西野由希子 環境省 内閣府シティマネージャー 北海道ニセコ町企画環境課参事 金井 信宏 氏 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 内閣府シティマネージャー、新潟県粟島浦村総合政策室長 茨城大学社会連携センター顧問 阿部 剛志 氏 博報堂ブランドデザイン副代表、スマート×都市デザイン研究所長 内閣府シティマネージャー、茨城県桜川市参与、つくばみらい市参与、 鳥取県日野町参与、茨城大学社会連携センター顧問 深谷 信介 氏 RCF シニアマネージャー、内閣府シティマネージャー、 奈良県明日香村政策監、富山県氷見市政策アドバイザー 茨城大学社会連携センター顧問 山本 慎一郎 氏 一般社団法人「村楽」理事、内閣府シティマネージャー 北海道奈井江町ふるさと創生アドバイザー、 茨城大学社会連携センター顧問 東 大史 氏 モーハウス代表取締役、茨城県ユニセフ協会評議委員 茨城大学社会連携センター特命教授 光畑 由佳 氏
学 長 挨 拶 センター長挨拶 概 要 説 明 閉 会 挨 拶 参 加 者 数		学長 三村 信男 理事（社会連携）・社会連携センター長 影山 俊男 社会連携センター副センター長 西野 由希子 社会連携センター特命教授 福島 健太郎 75名 学生 5名 教職員 22名 自治体 28名 企業 20名

【実施した効果や今後の対応について】

- ・終了後に回収したアンケートでは、95%から「とてもよかった」「よかった」の回答をいただいた。「体系的な説明と実践事例を聞くことができた」「1つのテーマについてじっくり話を聞くことができてよかった」「参加者も様々な分野の方がいて今後の参考になった」というような意見をいただいた。
- ・社会連携センターの企画については、「告知をもっと早くしてほしい」「年間スケジュールがあるといい」などの意見があったので、来年度はこれらに responding していくことにしている。



地方創生セミナー

2月3日

2017年

第1部

13:30~15:00

13:00より受付

第2部

15:10~17:00

無料

茨城県や全国の各地域ではどのような「地域活性化」「地方創生」の取り組みが行われているのか、現在取り組んでいる事業をどのように展開していったらいいか、など、みなさまの疑問、悩み、思い、願い、...を、現場で活動されている講師のみなさんと少人数のセッションで、じっくり語りあっていただく企画です。ぜひ、ご関心のあるテーマ・講師のセッションに参加していただき、茨城県内各地域でのアクションのあとおしになればと願っています。

会場◎茨城大学図書館 3階ライブラリーホール 茨城県水戸市文京2丁目1-1

※当日お越しの際は、キャンパス内の駐車スペースに限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用いただきたくお願いいたします。

第1部 講師による講演

13:30~15:00

第2部 テーマセッション

15:10~16:30

16:30~17:00 自由懇談

●テーマ

- A 住民主体のまちづくり(金井信宏氏)
- B 創発のチームづくり(阿部剛志氏)
- C 地域ブランディング(深谷信介氏)
- D 豊かな暮らし指標(東大史氏)
- E 観光地経営に向けて(山本慎一郎氏)
- F ダイバーシティ(光畑由佳氏)

講師のご紹介

金井信宏氏

環境省 内閣府シティマネージャー(北海道ニセコ町企画環境課参事)
専門は応用化学。ニセコ町で、町民主体の「自治創生」に取り組んでいる。

阿部剛志氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 内閣府シティマネージャー(新潟県粟島浦村総合政策室長) 茨城大学社会連携センター顧問 専門は国土・地域政策。「創発」という切り口で、新しいチャレンジを始めるプロセスの一例をお伝えします。

深谷信介氏

博報堂ブランドデザイン副代表、スマート×都市デザイン研究所長 内閣府シティマネージャー(茨城県桜川市参与、つくばみらい市参与、鳥取県日野町参与) 茨城大学社会連携センター顧問 専門はブランディング、都市デザイン。WEBコラム「日本トコトコ」連載中。

光畑由佳氏

モーハウス代表取締役 茨城県ユニセフ協会評議員 筑波大学大学院非常勤講師 茨城大学社会連携センター特命教授 新しいライフスタイルを提案する「モーハウス」で実践する「子連れワークスタイル」は古くて新しいワークスタイルとして国内外から注目されている。

東大史氏

一般社団法人「村楽」理事 内閣府シティマネージャー(北海道奈井江町ふるさと創生アドバイザー) 茨城大学社会連携センター顧問 全国の各地で、その地域ならではのまちづくりを提案、実践している。

山本慎一郎氏

RCFシニアマネージャー 内閣府シティマネージャー(奈良県明日香村政策監) 富山県永見市政策アドバイザー 茨城大学社会連携センター顧問 専門は地域づくり。福島県川内村のまちづくりにも長く関わっている。

お申し込み先 2017年1月31日(火)までに、下記を記入して

syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp あてに、メールでお申し込み下さい

- ① メールの題名に、「地方創生セミナー参加申し込み」とお書き下さい。
- ② お名前、ご所属(職名)、連絡先(メールアドレス、電話番号)
- ③ 「第2部 テーマセッション」については、「テーマA~F」または「講師名」で、「第1希望」「第2希望」をご記入下さい。(ご希望に沿えない場合もございます)

お問合せ●茨城大学社会連携センター 社会連携課

電話 029-228-8585 e-mail: syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp 29



/ 図書館「新聞マルシェ」が文科省「大学図書館における先進的な取組の実践例」で紹介されました

図書館「新聞マルシェ」が文科省「大学図書館における先進的な取組の実践例」で紹介されました

茨城大学図書館の「新聞マルシェ」の取り組みが、「大学図書館における先進的な取組の実践例」として文部科学省のホームページで紹介されました。



茨城大学図書館本館（水戸キャンパス）では、茨城新聞社の協力のもと、茨城新聞のほか全国の地方新聞14紙を常備し、自由に手に取って読むことができるスペース「新聞マルシェ」を設けています。地元紙だけでなく全国各地の新聞を提供する事業は、全国的にも初の取り組みといえます。平成27年度に始まった「茨城学」などの科目とあわせ、世界の問題とも関連づけながら幅広い視点から「地域」を捉え、地域性や言論の多様性についての学びを深める場として、広く学生や教職員に利用されています。また、平成27年度には、地方の報道への関心を深めることを目的とした「新聞マルシェシンポジウム」もライブラリーホールで実施しており、スペースの設置に留まらない幅広い事業を展開しています。

文部科学省では、科学技術・学術審議会内の学術情報委員会において、大学図書館や情報ネットワーク、学術情報流通など、学術基盤整備のあり方についての検討を行っており、意欲的な取り組み事例の情報共有を目的に、「大学図書館における先進的な取組の実践例」をホームページで紹介しています。今回、本学図書館の「新聞マルシェ」についても、独自の優れた取り組みとして紹介されました。

リンク

[文部科学省ホームページ：大学図書館における先進的な取組の実践例](#)

【茨城大学】新聞記事を使ったグループワークショップを茨城新聞社と開催

茨城大学は、1月18日（水）、テーマに沿って選んだ新聞記事を使ってグループで語り合う「新聞マルシェ ワークショップ〈ニューステーブル〉」を、茨城新聞社とともに開催した。「新聞マルシェ」は、茨城新聞社の協力のもと、同大図書館において全国各地の地方新聞14紙を読むことができるスペースを提供している事業で、昨年（平成28年）10月には「大学図書館における先進的な取組の実践例」として文部科学省のホームページでも紹介された。同事業では、スペース設置とあわせて新聞への関心・理解を促すシンポジウムなどのイベントも毎年実施しており、今回のワークショップもその一環で企画された。

今回のワークショップには、大学生13人のほか、茨城県立那珂高等学校の生徒約30人も参加。参加者には前日と当日の二日分の茨城新聞が配られ、新聞マルシェに設置された新聞とあわせて複数の紙面を広げながら、指定されたテーマに沿って気になる記事をひとつ選択。テーマは「地方創生」「若者」「大学」「就職」「アメリカ」の中から、グループごとにくじで割り当てられ、参加者たちは各グループに分かれてメンバーが選んだ記事を互いに読み、その中で特に共感した記事、印象に残った記事を話し合いや投票で決めた。

「アメリカ」というテーマで記事を選んだあるグループでは、大学生のメンバーの進行のもと、高校生たちがトランプ大統領について意見を交わす中、地域でジャズコンサートを開いている日本人女性についての記事に注目が集まった。「ジャズの発祥はアメリカだから選んだ」という生徒の説明を受け、その視点のユニークさから、最終的にグループ内で印象に残った記事として選ばれた。

今回の企画には、茨城新聞の現役記者もオブザーバーとして参加した。そのひとりで、同大卒業生でもある松原英美記者は、「記事の選び方、感じ方が新鮮で、取材をする上で勉強になりました」と講評を述べた。



新聞記事を選ぶ高校生の参加者たち



記事をシェアしてグループで話し合い

【実施した効果や今後の対応について】

- ・今回は、大学生と高校生がグループになってワークショップを行う形で実施したが、アンケートの結果を見ると、「いろいろな人の新聞記事の見方が聞けてよかった」「新聞を読むことに興味がわいた」などたいへん好評であった。
- ・高校生に参加してもらったことで大学生にとってもよい経験になり、今後の企画を今後も望む声が多かったので、これらの意見を参考に次年度の企画をたてていく。

「新聞マルシェ ワークショップ<ニューステーブル>」

主催：茨城新聞社、茨城大学社会連携センター、茨城大学COC統括機構、茨城大学図書館

日時 2017年1月18日(水) 15時～17時

会場 茨城大学図書館(ライブラリーホール、セミナールーム、「新聞マルシェ」コーナー、グループ学習室等)

■今回の企画について

・「新聞記事」を読み、語りあうことで、記事の読み方、ニュースの見方を深めることを目的に、「ワークショップ」を開催します。

■タイムスケジュール

14:50、受付 @図書館ライブラリーホール前

15:00～17:00、ワークショップ

15:00、開会あいさつ

オリエンテーション ワークショップのやり方の説明、
「テーマ」の発表、各グループのテーマ決定
茨城新聞〔当日分、前日分〕を配布

→「新聞マルシェ」コーナーに移動



15:10～15:50、「新聞マルシェ」コーナーを活用して、「テーマ」に基づいた記事選び(グループ学習室も、適宜利用できます)

*配られた茨城新聞のほか、「新聞マルシェ」コーナーの新聞をできるだけたくさん、見てみて下さい。

*テーマに合うような記事を探して、読んでみましょう

*複数の新聞で、複数の記事を見つけ、比較してみてください

*新聞は「社会面」「経済面」「地域面」など、性格がありますが、自分の「テーマ」の記事は、この「面」にあると思い込まずに、いろいろ探してみることをお勧めします

*自分の出す記事を1つに決めます

*記事が決まった人は、

A 配られた茨城新聞から選んだ人は、直接切り抜いて用紙に貼り、所定の場所(図書館カウンター横)へ行って、資料作成を依頼して下さい。

B それ以外の新聞の記事の場合、まず、所定の場所(図書館カウンター横)へ行って、コピーを依頼して下さい。それからコピーされた記事を切り抜いて用紙に貼り、もう一度、所定の場所(図書館カウンター横)へ行って、資料作成を依頼して下さい。

15:50～16:00、休憩(自分のグループのテーブルに移動)

16:00～16:10、ワークショップ開始

メンバーで自己紹介してください(グループリーダーが司会をつとめて下さい)

配布資料では、どの記事をだれが選んだか、わからないようになっています。

①それぞれに、新聞記事（配付資料）を読む。

16：10～16：25、

②グループのメンバーが1人ずつ、読んだ感想などを発表する。

③グループで、投票により、記事を1つ選ぶ。

✳それは、だれが選んだ記事か、発表してください

16：25～16：45、

④グループで意見交換。

（余裕があれば、隣のグループと合同で意見交換を行ってください）

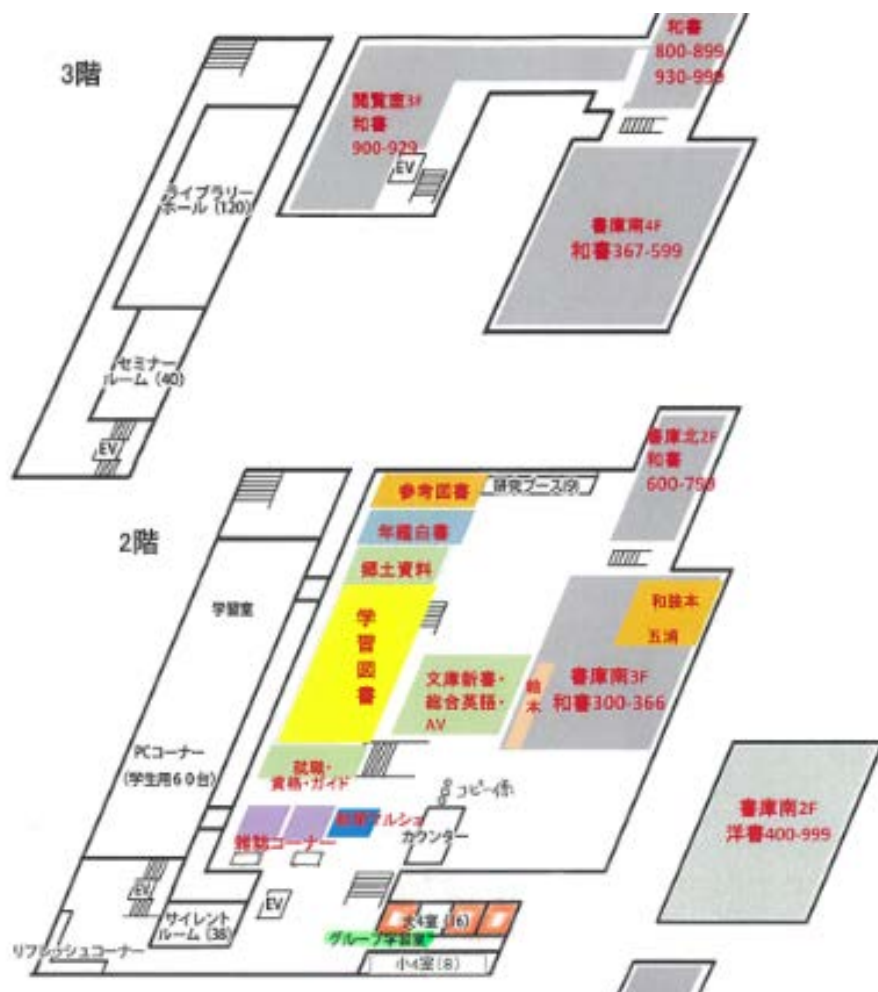
時間になったらライブラリーホールへ移動。

16：45～17：00、

記者の方たち、茨城新聞社の方たちから、コメント、講評をいただきます

終了あいさつ

*参加者アンケート（2種類）にご協力ください



平成28年度 茨城大学県北芸術祭関連プロジェクト採択一覧(4件)

概要 茨城大学社会連携センターは、大学の持つ多様な資源を活用し、社会の様々な主体と協働して、社会の新たな価値創造に向けて活動を推進するため、茨城県及びその舞台となる茨城県北6市町自治体(日立市、高萩市、北茨城市、常陸太田市、常陸大宮市、大子町)との協働のもと、平成28年9月7日(水)～11月20日(日)に開催される「茨城県北芸術祭」と連携した「茨城大学・茨城県北芸術祭連携プロジェクト」を実施した。

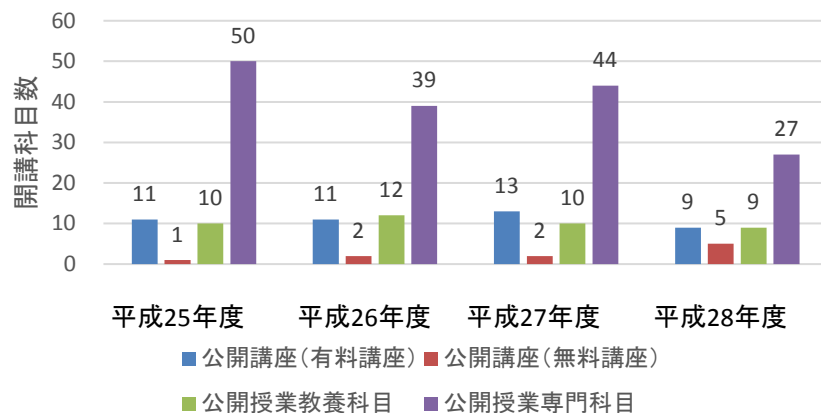
No.	部局等名	代表者名	連携先	プロジェクト名	金額
1	人文学部	西野 由希子	・常陸大宮市市民協働課 ・常陸大宮市まちづくりネットワーク代表	地域の魅力を地域から発信 ー常陸大宮市「地域案内人」充実プロジェクトー	496,000
2	教育学部	片口 直樹	・教育学部非常勤講師 横田将士	「時の回廊ー観月会2016ー」	500,000
3	教育学部	大島 規江	・常陸大宮市教育委員会文書館 ・常陸大宮市歴史民俗資料館	和紙による文化振興 ー常陸大宮市大子町における試みー	117,000
3	工学部	一ノ瀬 彩	・日立市都市建設部営繕課 ・日立市科学文化情報財団 日立ビックセンター	Hitachi Sea-Side Travel Station	500,000

【実施した効果や今後の対応について】

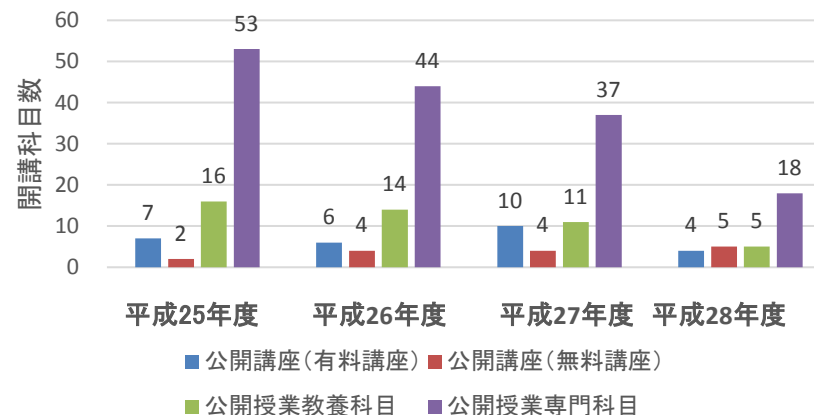
- ・4件のプロジェクトは、2016年度の「県北芸術祭」の準備が進行している中、2015年度の後半に大学内で募集し、採択されたもので、「芸術祭」が実施される本年度、継続して活動を展開した。
- ・「県北芸術祭」に関しては、本プロジェクトのほか、五浦美術文化研究所内に芸術祭参加アーティストが作品を設置、学生たちが県の来場者アンケート調査に参加するなど、さまざまな協力を行ったが、早い段階から検討や相談を行ったとは言えない。今後、このような大型の企画が行われる際には、大学の考え方などを早めに整理し、相手方と十分に協議して対応していくことが望ましい。

公開講座・公開授業科目数・受講者数一覧(平成25年度～平成28年度)

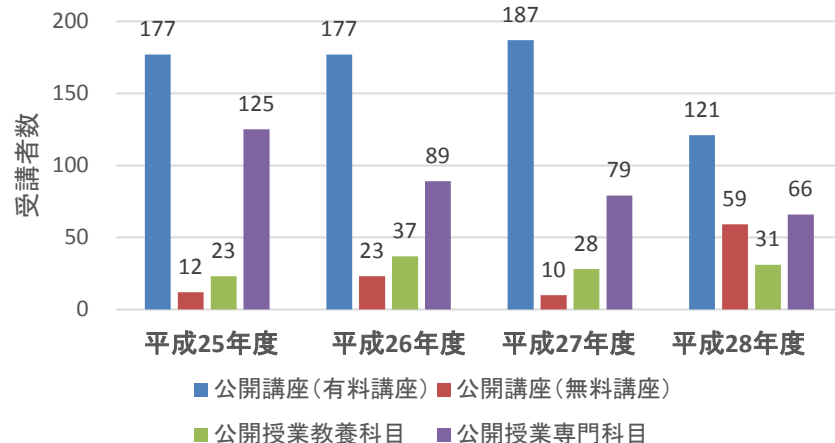
公開講座・公開授業開講数(前期)



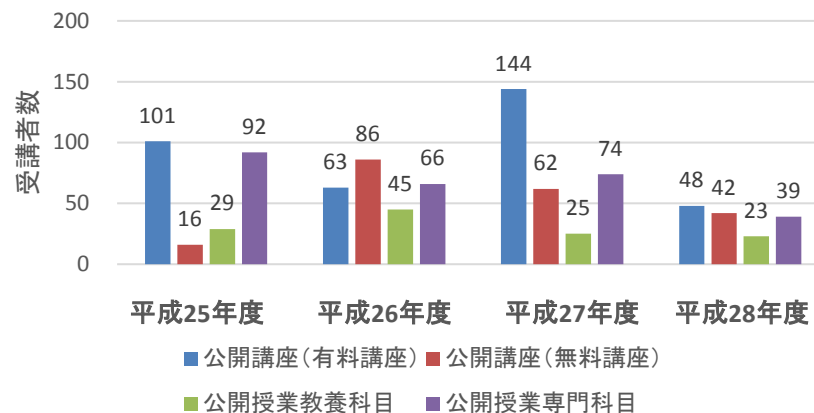
公開講座・公開授業開講数(後期)



公開講座・公開授業受講者数(前期)



公開講座・公開授業受講者数(後期)



【実施した効果や今後の対応について】

・平成29年度から全学で新しいカリキュラムがスタートすること、県内での県民講座・市民講座の位置づけも変わってきていることから、社会連携センターでも全体的な見直しを行って、できるだけ学外と連携を図る方向に新年度から移行する。

「平成28年度社会教育主事講習」を開催

文部科学省からの委託事業として、平成28年度社会教育主事講習を実施した。

本講習は、社会教育法及び社会教育主事講習等規程に基づき、社会教育主事となるべき者に、職務を遂行するにあたり必要な専門的知識、技能を修得させ社会教育主事となりうる資格を付与することを目的として、北関東地区では2年交替で本学と宇都宮大学が、茨城県と栃木県の学校教員や行政機関等の職員を対象に実施しているものである。

今年度は、茨城県から48名、栃木県から23名の計71名の受講者があり、全員が社会教育主事講習の全課程を修了した。

講習は、平成28年7月25日から8月24日までの間で、実質22日間にわたり社会教育概論、社会教育計画、社会教育演習、社会教育特講の各講義や演習が165時間実施された。

社会教育演習では、実践を想定してのワークショップやプレゼンテーション等の実習を行い受講生からも好評であった。

また、12の班に分かれてそれぞれの課題を受講生の前で班ごとに発表を行い、報告書にまとめることにより課題に対する多角的な検証や実地調査なども行い、協調性や仲間意識なども培われる講習となった。

宿泊研修や現地研修、施設見学なども実施し、受講生同士の絆が深まると共に、社会教育に対する意識も大きく変わったとの意見を受講生から得ている。



「第2回 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」を開催

「第2回 関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」が、平成28年10月15日（土）・16日（日）に茨城大学水戸キャンパスで開催された。

この会では「学びを通しての地域活性化」という点で成果をあげている各都県の実践を発表し、話し合いを通して経験・知識・技術を学び合うこと、関東圏域での地域づくりに関わる実践研究交流の場づくり、支援スキルの習得、対話・交流が地域課題解決の糸口となることを目的としている。

1日目には、5つのテーマ（①学校・家庭・地域の連携、②家庭教育支援、③地域課題の解決に向けた取組、④地域課題の解決に向けた取組、⑤青少年教育）に分かれ、テーマごとに4団体から事例紹介が行われた。その後、それぞれの課題解決に向けた意見交換を行い、参加者は課題への解決策を探った。

2日目は、レベルにあわせて、地域課題解決のための支援スキル・ノウハウについての研修が行われた。その後の全体会では、課題解決に向けた今後の行動についての対話を行い、国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター長、千葉敬愛短期大学学長の明石要一先生から「社会教育に問う！今、社会教育にできることとは」と題した講演をいただいた。

1日目には331名、2日目は184名の延べ515名の参加者があった。



【実施した効果や今後の対応について】

- ・茨城県は社会教育主事の養成に力を入れており、市町村に配置される社会教育主事の数も多くなっていて、市町村で果たす役割も大きくなっている。社会連携センターが自治体といっしょに活動する際の担当者であることも多いが、社会教育主事のネットワークのスタートが「社会教育主事講習」でもあるので、今後もこの事業を通して受講生とよい関係を築き、お互いにこのネットワークを活かしていきたい。
- ・「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」についても参加者の評価が高く、今後も開催をサポートして、社会教育のネットワークづくりに貢献し、自治体や地域、教育の現場での活動の支援を行っていきたい。

「いばらき子ども大学」、茨城大学講堂で平成 28 年度開校式を開催

小学生たちが大学教員や企業研究員などによる専門的な講義を通して学ぶことができる「いばらき子ども大学」の平成 28 年度開校式が、6 月 25 日（土）、茨城大学水戸キャンパスの講堂で行われた。

「いばらき子ども大学」は、「子どもたちの知的好奇心等に応え、知的な世界を開く」ことを目的に、大学や企業、生涯学習関係機関との連携により、科学、金融、農業、医療、芸術など様々な分野について、小学生の興味にあわせた授業を企画し、茨城県内の大学等をキャンパスにして実施している。NPO などで組織される「いばらき子ども大学実行委員会」、茨城県教育委員会、茨城大学社会連携センターの主催で平成 26 年度に始まり、今年で 3 年目を迎えた。

開校式では、いばらき子ども大学の学長を務める茨城県北生涯学習センター長の野口不二子氏、茨城県教育委員会の小野寺 俊 教育長、茨城大学の三村 信男 学長からそれぞれ挨拶があり、約 500 名の小さな大学生にエールが送られた。

第 1 回の合同授業は、日米のテーマパークでの勤務経験がある加賀谷 克美 氏が講師を務め、「働くことって楽しいんだよ！！」と題し、仕事の大切さや仕事の楽しさを熱く語りかけた。子ども大学生たちも真剣に講義を受講し、これからの小さな大学生としての学園生活を楽しみに目を輝かせていた。



挨拶する茨城大学・三村信男学長。
右は野口不二子・子ども大学学長と
小野寺俊・県教育長



講義を聞く小学生たち

【実施した効果や今後の対応について】

- ・「いばらき子ども大学実行委員会」からは、本学を会場にしていることについて小学生やその家族から好評であること、今後も共催で行いたいこと、会場の使用や本学の学長や教員の講師としての協力、などのご要望を頂いている。
- ・2017 年度も引き続き共催としてご協力していく。

【茨城大学】国内外の研究者招き岡倉天心シンポジウム

茨城大学は、9月3日(土)、国内外の研究者等を招き、「国際 岡倉天心シンポジウム 2016」(共催：茨城新聞社・北茨城市)を水戸市内のホテルで開催した。全国各地からの約 350 人が参加した。

思想家・岡倉天心は晩年の 10 年間、北茨城の五浦海岸に拠点を移し、横山大観らの画家とともに活動した。岡倉が設計した六角堂(東日本大震災の津波で流失したあと再建)や当時の邸宅などの史跡は、昭和 30 年に茨城大学に寄贈され、同大五浦美術文化研究所が中心に管理と調査・研究を行っている。

本シンポジウムでは、国内からは、岡倉らが創設した日本美術院の代表理事を務めている、茨城県出身の日本画家・那波多目功一氏、前文化庁長官の青柳正規氏をゲストに迎えた。青柳氏は、文化財保護における岡倉の功績を振り返り、現在の日本の文化行政への影響に言及した。また、海外からの登壇者として、岡倉が勤務した米国ボストン美術館で日本美術課長を務めているアン・シニムラ・モース氏、日本ヴェーダーンタ協会会長で僧侶のスワミー・メーダサーナンダ氏、マサチューセッツ州立大学准教授のヴィクトリア・ウェストン氏が、それぞれ岡倉の米国やインドといった海外での業績や文化交流の足跡を紹介した。

国内外からのゲスト登壇者に、茨城大学の岡倉天心研究者である小泉晋弥教授、清水恵美子准教授を加えた後半のパネルディスカッションでは、五浦美術文化研究所長を務める藤原貞朗教授の進行のもと、「岡倉がこれだけの文化交流を果たせたのはなぜか」「晩年の 10 年間における五浦とボストンのふたつの拠点の関係」という 2 つの課題について討論が行われた。議論を通じて、文化の力を信じ、行動した岡倉の姿が浮かび上がるとともに、これまで不遇の時代とも評されてきた五浦での 10 年間を、むしろ岡倉の文化・芸術活動の集大成として見る視座が示された。

最後に閉会の挨拶を行った同大の影山 俊男 理事・社会連携センター長は、「今後、天心遺跡を管理する茨城大学が天心研究のひとつの拠点になり、『五浦の 10 年』について再評価、発信するとともに、地域の皆さまや全国各地の天心ゆかりの方々とさらなる連携を図っていきたい」と語った。



パネルディスカッションの様子



前文化庁長官・青柳 正規氏による記念講演

【茨城大学】岡倉天心の思想と足跡に触れる「北茨城市 五浦探訪」

茨城大学は、9月4日（日）、「国際 岡倉天心シンポジウム」の一環として、茨城県北茨城市の六角堂など岡倉天心ゆかりの史跡などを巡る「北茨城市 五浦探訪」というツアーイベントを行った。当日は県内外から約100人の参加者が集まり、一日かけてツアーを楽しんだ。

冒頭のガイダンスで北茨城市の豊田稔市長は、今秋に実施される「茨城県北芸術祭」に触れ、「北茨城で芸術が展開されるという天心の夢を果たしたい。今回の五浦探訪もあわせてこの秋は天心一色にできれば」と期待を込めて語った。

参加者は4つのグループに分かれ、北茨城市の観光ボランティアの協力のもと、茨城大学五浦美術文化研究所、茨城県天心記念五裏美術館、五浦岬公園などのスポットを回った。五浦美術文化研究所内の旧天心邸で開いた「珈琲茶席」では、座主を務めた株式会社サザコーヒーの鈴木誉志男会長が、天心が滞在した20世紀初頭の米国の流通状況の記録などをもとに自ら調合、焙煎したコーヒーを振る舞いながら、天心への思いを語った。参加者たちは浅煎りのコーヒーを味わいながら、『茶の本（Book of Tea）』を著し、東洋と西洋の文化交流に奔走した天心に、思いを巡らせた。

午後は「ハイライト公演」として、五浦観光ホテル内に特設した舞台で、「天心オペラ《白狐》」を鑑賞した。天心が最晩年に書いたオペラ「白狐（The White Fox）」は、天心の生前には作曲されることがなく、「幻のオペラ」とされている。今回上演したのは、指揮者・作曲家の平井秀明氏が作曲および翻訳・台本の再構成を行ったもので、当日は平井氏の指揮、茨城大学の清水恵美子准教授による解説のもと、約2時間にわたる上演が行われた。当日は、かつて天心が「世界一の景勝の地」として愛でた新潟県妙高市からも合唱団が来県し、その迫力ある歌声と悲哀に満ちた物語に、ツアー参加者たちも感動を覚えた様子であった。



旧天心邸で行われた珈琲茶席



北茨城市・五浦の各所をめぐるツアー



ハイライト公演「天心オペラ《白狐》」

【実施した効果や今後の対応について】

- ・今回の「国際岡倉天心シンポジウム 2016」、および「五浦探訪」の企画については、アンケートなどでも全体に高い評価をいただいた。
- ・両企画についてはチラシやポスター、知人・友人に加え、本学や教職員からのおしらせなどで知ったという方が多く、今後、企画を行う際の事前のPRの方法について参考になった。
- ・「天心のことを継続して学びたい」「天心について子どもたちや若い世代が学ぶ機会をつくってほしい」「五浦の地域ブランディングに期待したい」などの意見もいただいております、次年度以降の参考にしていこう。

【茨城大学】岡倉天心に因んだ「五浦コーヒー」を開発

茨城大学は、9月3日（土）、株式会社サザコーヒーと共同開発した新商品「五浦コーヒー」を発売した。

この商品は、岡倉天心ゆかりの北茨城市・五浦地域のブランディング事業の一環として、「茨城大学 国際岡倉天心シンポジウム 2016」にあわせて開発したもの。同大では、岡倉天心が代表的な著作『茶の本（THE BOOK OF TEA）』で示した、“茶をすすりながら”異なる文化の対話を図ろうという「Teaism」に着想を得て、現代において新たなコミュニケーションを促すものとしてコーヒーに注目した。その後、同大のパートナー企業である株式会社サザコーヒー（本社：茨城県ひたちなか市）の鈴木誉志男会長が、天心がボストン美術館に勤めた20世紀初頭の米国の流通状況などを調査し、往時の浅煎りのシティ・ロースト・コーヒーを再現させ、新たな商品としての開発を共同で進めてきた。

商品名である「五浦コーヒー」は、天心がコーヒーの道具を友人に贈る際に書いた書簡に見られる、「コーヒー器械」という記述から名づけた。六角堂を描いた水墨画をあしらったパッケージは、筑波大学芸術系の原忠信研究室がデザインを手がけ、「五浦コーヒー」の文字は書家で茨城大学名誉教授の川又南岳氏が揮毫した。また、茨城大学の学生たちによる「五浦発信プロジェクト」では、「五浦コーヒー」をツールとしたまちづくりの活動も始動。岡倉天心についての学びを深めるとともに、地域住民とも意見交換をしながら、さまざまなおもてなし企画のプラン作りや実践を進めている。

開発をコーディネートした同大工学部の一ノ瀬彩助教は、「岡倉天心についての研究の積み重ねや、地域との交流をベースにし、さらに学生たちの活動を通してまちづくりにつなげていくという、大学ならではの商品ができた」と話している。

商品は、カップオン形式のコーヒーが5パック入って、税込み800円。「国際 岡倉天心シンポジウム 2016」の会場で試飲を提供したところ、参加者からは「飲みやすい」と好評だった。今後、北茨城市内の観光地や茨城大学水戸キャンパス内にあるサザコーヒーの店舗などで順次販売を展開。また、売り上げの一部は、岡倉天心遺跡の保全や教育普及・研究活動に役立てていくことになっている。



五浦コーヒー



五浦で行われた関係者・報道向け商品発表会の様子

【茨城大学】「五浦発信プロジェクト」

茨城大学では、地域連携の一環として、地域の文化・資源の価値を高め、発信する取り組みを進めている。北茨城市・五浦^{いづら}にある思想家・岡倉天心ゆかりの六角堂や旧邸の保全と関連の教育・研究活動もそのひとつ。昨年は「国際岡倉天心シンポジウム」を開催し、岡倉の思想の現代的意義を確認するとともに、五浦を拠点とした晩年の業績を再評価する視座を得た。

また、あわせて始動した五浦地域のブランディング事業の第一弾が、県内企業の株式会社サザコーヒーとの新商品「五浦コーヒー」の開発である。岡倉の代表的著作『茶の本』に着想を得た商品で、岡倉がボストン美術館に勤めた時代に米国内で飲まれていたコーヒーをイメージしてブレンドした。「コーヒー」の名は、岡倉の書簡に残されている「コーヒー器械」という記述から名づけた。売上の一部は六角堂や史料の保全などに役立てる。

現在、岡倉の思想に関心をもった学生たちが、五浦コーヒーを活用した地域プロモーション活動も進めている。



平成28年度 学生地域参画プロジェクト採択及び最優秀プロジェクト

28年度表彰	No.	所 属	氏 名	プ ロ ジ ェ ク ト 名	金 額
最優秀プロジェクト	1	人文学部 3年	野中 萌	まなびの輪 ～大洗との協働～	392,000
優秀プロジェクト	2	人文学部 4年	菊地 ほのか	茨大聞き書き隊 Notes	38,000
優秀プロジェクト	3	農学部 2年 農学部 2年	小貫 えみり 中原 沙彩	あみゆめカフェ ～知って、好きになって、発信する 未来に繋げるカフェづくり～	235,000
	4	人文学部 3年	首藤 沙姫	君とチャレンジ ～障害のある人の社会参加支援プロジェクト～	265,000
	5	人文学部 3年	大枝 俊貴	種まきサミット	100,000
	6	人文学部 1年	木村 愛実	現場から学ぶ茨城学 ～畑で広げる地域の「わ」～	346,000
	7	人文学部 1年	佐々木 春菜	多-linguaRoom ～地域がつながり、世界へつながる～	342,000
	8	理学部 3年	小沼 里沙	大洗応援隊! ～広げよう交流の輪 踏み出そう新たな一歩～	248,000
	9	理学部 2年	藤田 真帆	日本一つながる学食プロジェクト	200,000
	10	農学部 3年	佐々木 亮輔	のらボーイ&のらガール 食農教育プロジェクト	108,000

【実施した効果や今後の対応について】

- ・今年度は、大学ではじめて企画した「学生地域活動報告会」に参加したり、「茨城学」の時間に活動について発表するなど、いろいろな場に参加・協力をしてもらった。
- ・茨城県でも女性と青少年の地域での活動に対する「助成制度」が始まっており、発表や交流の機会も設けられている。大学での学生プロジェクト支援との関係については、今後も県と情報交換を行っていく。
- ・できるだけ多くの学生（グループ）を支援したいこと、特に1年生などを中心に活動の「スタートアップ」を応援するため、平成29年度からは年度後半の申請・支援も検討している。

茨城大学で学生地域活動発表会2016〈はばたく！茨大生〉を開催

茨城大学では、12月21日（水）、地域でのボランティアや研究等に取り組んでいる学生たちのうち30団体がその活動について口頭やポスター展示などにより発表し、相互に交流するイベント「茨城大学学生地域活動発表会 2016 〈はばたく！茨大生〉」を初めて開催した。学生、高校生65名の他、自治体、企業80名、大学関係25名などから併せて約170名が参加した。

茨城大学の学生たちはこれまでも地域の中で展開されるさまざまな活動に参加、あるいは自らプロジェクトを企画・運営し、地域社会に関わってきた。近年は自治体や企業からの学生への期待も高まっており、本学では平成28年度にディプロマポリシー（学位授与方針）を定め、5つの茨城大学型基盤学力のひとつとして「地域活性化志向」を掲げ、全学部必修の授業「茨城学」の開講など、学生の地域志向を高め、活動を支援する全学的な仕組みを構築している。

今回の「茨城大学学生地域活動発表会 2016 〈はばたく！茨大生〉」では、授業やプロジェクト、ボランティア、サークルなどさまざまな形で地域活動を行っている全学の学生たちが参加し、それぞれの取り組みを発表した。学生たちの地域活動は、外国人住民への学習支援、農業体験をとおした食農教育プロジェクト、東日本大震災や関東東北豪雨等の災害からの復興支援、地域の伝統行事を継承する活動など多岐に亘っている。

口頭発表の後には会場を移し、ポスター展示による取り組みの発表と、参加者が学生たちと直接交流する懇談の場が設けられた。



三村学長による開会挨拶



学生の口頭発表



学生の口頭発表



ポスター展示による発表会および懇談会

【実施した効果や今後の対応について】

・参加した学生や教職員、学外からの参加者など多くの方が、学生たちの活動の多様さと内容について評価していた。直接会話ができ、交流できたことも好評で、学生たち自身の今後の活動につながっていくきざしも見えている。

・今後、春には主に新入生などの学生を対象にした発表会として企画する。秋ごろには、今回のように、学外の方に参加いただく形での開催を継続する。さらに広く学生たちに参画を呼びかけながら、さまざまな学生の地域活動について地域へ発信し、地域の方々から学生たちに指導や助言を得られる場を設ける。

茨城大学 学生地域活動発表会 2016

<はばたく！茨大生> 次第

1. 日 時 平成28年12月21日（水）14：30～17：10
2. 会 場 茨城大学 教育学部D棟201番教室（発表会）
B棟205番教室（ポスター発表・懇談会）
水戸市文京2-1-1
3. 司 会 茨城大学人文学部コミュニケーション学科4年次 松本 奈津美
4. 次 第

14:30 開会挨拶 茨城大学長 三村信男
趣旨説明等

14:40～16:10 学生口頭発表（プレゼンテーション）

1. 茨大東北ボランティア Fleur
2. 茨城大学西塩子の回り舞台チーム
3. 君とチャレンジ ～障害のある人の社会参加支援プロジェクト～
4. 国際交流サークル地球村
5. ぴたっとラジオン
6. 日本一つながる学食プロジェクト
7. のらボーイ&のらガールの食農教育プロジェクト
8. まなびの輪—大洗との協働—

学生口頭発表後

- ・学生は、B棟205番教室へ移動する。
- ・企業関係者、自治体関係者には、残っていただき、太田寛行理事から来場者へ「アンケート」についてお話しをされる。

16:10～16:20 休憩

16:20～17:10 ポスター展示による活動発表および懇談会（来場者と本学学生）

【学生によるポスター発表】

9. あみゆめ
10. 五浦発信プロジェクト（五浦コヒー）
11. 茨城県×学生商品開発プロジェクト（仮）大洗応援隊！
12. 大洗応援隊
13. 現場から学ぶ茨城学～畑で広げる地域の「わ」～
14. 児童文化研究会
15. 地域課題の総合的探求プログラム2年生
16. 地域課題の総合的探求プログラム3年生
17. ドメーヌ水戸チーム
18. ラグビー部

【ポスター展示及び配付資料（A 4）による紹介】

- 19.ふうあいねっと（原口ゼミ）
- 20.茨大聞き書き隊 Notes
- 21.史料ネット
- 22.小原ゼミ
- 23.つと豆腐復興プロジェクト
- 24.人文学部 プロジェクト実習

【配付資料（A 4）による紹介】

- 25.FES（Food Education Supporter）
- 26.多-linguaRoom
- 27.子どもふれあい隊

【紹介のみ】

- 28.星見同好会
- 29.地質情報活用プロジェクト
- 30.アナウンスステーション

平成28年度 工学部研究室訪問交流会 実施報告

【概要】

茨城産業会議と茨城大学は産学連携事業として、研究室訪問交流会を行っています。本交流会は、大学の有する教育研究の成果を地域の皆様に還元し、情報交換を通じ、産業経済界の活性化を目的に開催し、最新の研究を紹介し、参加された企業、団体の皆さまと教職員、学生との交流の場となりました。

実施日 : 平成28年12月20日(火) 天気: 晴れ

講演会・研究室訪問: 13時30分～17時20分

場所 : 工学部N4棟 (小平記念ホール)

講演会・訪問研究室出席者数: **平成28年度 127名(一般・企業 96名、大学 31名)**

平成27年度 103名(一般・企業 73名、大学 30名)

平成26年度 57名(一般・企業 38名、大学 19名)

懇親会出席 : **平成28年度 懇親会は実施せずコミュニケーションタイムを設定**

平成27年度 懇親会は実施せずコミュニケーションタイムを設定

平成26年度 39名(一般・企業 25名、大学 14名)

新しい試み

- ・コミュニケーションタイムについて、前年度は研究室ごとにブースを設け、ポスター展示の際に学生が説明をしていたが、今年度は見学対象の研究室に配属されている学生が、参加者全員に向けて、研究内容についてのショートプレゼンを実施した。



工学部研究室訪問交流会 プログラム

開催日：平成28年12月20日（火）

会 場：N4棟 小平記念ホール

司 会：茨城大学工学部 教授 金野 満

- | | | |
|------------------------------|-------|-------------|
| (1) 挨拶 | | 13:30～13:40 |
| 茨城大学社会連携センター長 | 影山 俊男 | |
| 茨城県中小企業団体中央会 専務理事 | 岩間 伸博 | |
| (2) 工学部の教育研究について | | 13:40～13:55 |
| 茨城大学工学部長 | 馬場 充 | |
| (3) 工学部の就職・インターンシップ状況について | | 13:55～14:10 |
| 茨城大学副工学部長 | 乾 正知 | |
| (4) 講演 | | |
| ・「ICTグローバル教育研究センターの活動報告」 | | |
| 教授 黒澤 馨 | | 14:10～14:25 |
| ・「塑性加工科学教育研究センターの活動報告」 | | |
| 教授 伊藤 吾朗 | | 14:25～14:40 |
| コミュニケーションタイム | | 14:50～15:40 |
| (パネル説明、名刺交換等、軽食付) | | |
| (5) 研究室訪問・見学方法の案内 | | 15:40～15:50 |
| (6) 研究室訪問 | | 15:50～17:20 |
| 工学部附属教育研究センター関連研究室見学、公開研究室訪問 | | |

平成28年度 理学部研究室訪問交流会 実施報告

実施日 : 平成29年3月3日(金) 天気: 晴れ

講演会・研究室訪問: 13時30分～17時40分

場所 : 理学部 K 棟 1 階 (インビュースタジオ、及びアクティブラーニング・スペース)

講演会・訪問研究室出席者数: **平成28年度 56名(一般・企業 28名、大学 28名)**

平成26年度 77名(一般・企業 36名、大学 41名)

平成24年度 57名(一般・企業 29名、大学 28名)

懇親会出席 : **平成28年度 約70名(一般・企業、大学教職員・学生)**

平成26年度 35名(一般・企業 17名、大学 18名)

平成24年度 38名(一般・企業 16名、大学 22名)

新しい試み

- ・懇親会の形式を変更し、各研究室のポスター展示および軽食を提供する「ポスター懇談会」を実施した。ポスター展示には理学部だけではなく、人文学部のポスターも展示し、人文学部の教員や学生も参加者へ内容を説明した。



【実施した効果や今後の対応について】

- ・工学部については、ここ数年、毎年、参加者が増加している。全体の時間配分やコミュニケーションタイムでの発表の方法などさらにくふうの余地がある点について、来年度以降、反映させる。
- ・理学部は、はじめて人文学部からポスター懇談会に参加したこと、また、学生たちが多く参加したこともあり、ポスター懇談会での来場者と学生たちとの交流が進んだことがよい点としてあげられる。さらに感想や意見等を集約し、次回以降の開催の形態等を検討していく。

理学部研究室訪問交流会 プログラム

開催日時：平成29年3月3日（金）13：00～

会場：茨城大学理学部K棟1階 インタビュースタジオ

司会：理学部地域連携委員会委員長 教授 百瀬 宗武

開場・受付 理学部K棟玄関ホール

13:00～

開会挨拶

13:30～13:40

影山俊男 茨城大学社会連携センター長
澤畑慎志 (一社)茨城県経営者協会 専務理事

理学部紹介

13:40～14:00

理学部の教育研究および施設について
理学部学生の就職状況について

理学部長 折山 剛
理学部キャリア委員長 藤澤清史

第1部 講演

14:00～15:00

講演「気候変動影響下の豪雨災害とその予測の取り組み」 (14:00～14:30)

理学部・地球環境科学領域・准教授 若月泰孝

講演「中性子散乱実験による磁性研究」

(14:30～15:00)

理工学研究科・物理学領域・教授 桑原慶太郎

休憩

15:00～15:10

第2部 研究室見学会

15:10～16:40

見学方法の案内

(15:10～15:20)

理学部研究室・実験室見学

(15:20～16:40)

S棟5, 6, 7階（物理学, 化学, 生物科学分野）

G棟1, 3階（物理学分野, 地球環境科学分野）

※各研究室の案内は別紙参照

第3部 ポスター懇談会 K棟アクティブラーニングスペース

16:40～17:40

人文学部ポスター展示について 人文学部長 佐川泰弘

軽食（無料）をとりながら、ポスター発表・名刺交換など（内容は別紙をご参照ください）

平成28年度 パートナー企業一覧

	企業名（五十音順）	役職名	代表者（敬称略）	住所
1	株式会社アート科学	代表取締役	佐藤 栄作	那珂郡東海村村松3135－20
2	株式会社旭物産	代表取締役社長	林 正二	水戸市平須町504
3	一誠商事株式会社	代表取締役社長	五十嵐 徹	つくば市竹園2丁目2番地4
4	株式会社イトウ	代表取締役	佐々木 隆	東茨城郡城里町那珂西2270－1
5	株式会社伊藤鑄造鉄工所	代表取締役	伊藤 幸司	那珂郡東海村村松3129番地43
6	茨城県信用組合	理事長	渡辺 武	水戸市大町2丁目3番12号
7	茨城トヨタ自動車株式会社	代表取締役社長	幡谷 史朗	水戸市千波町1887
8	株式会社大塚製作所	代表取締役社長	根岸 貴史	水戸市谷津町細田1－64
9	株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー	代表取締役社長	井畑 滋	鹿嶋市粟生東山2887
10	株式会社カスミ	代表取締役会長	小瀨 裕正	つくば市西大橋599－1
11	木内酒造合資会社	代表社員	木内 造酒夫	那珂市鴻巣1257
12	栗田アルミ工業株式会社	代表取締役社長	栗田 壮浩	土浦市北神立町4－5
13	株式会社ケーシーエス	代表取締役社長	金澤 博之	水戸市谷津町1番40
14	株式会社幸田商店	代表取締役社長	鬼澤 宏幸	ひたちなか市平磯町1113
15	香陵住販株式会社	代表取締役	薄井 宗明	水戸市南町2丁目4番33号
16	株式会社幸和義肢研究所	代表取締役	横張 和壽	つくば市大白裕341－1
17	コロナ電気株式会社	代表取締役	柳生 修	ひたちなか市東石川3517
18	株式会社サザコーヒー	代表取締役会長	鈴木 誉志男	ひたちなか市共栄町8－18
19	株式会社三友製作所	代表取締役社長	加藤木 克也	常陸太田市馬場町457
20	三和ニードルベアリング株式会社	代表取締役社長	田山 英明	つくば市上大島1904
21	株式会社常陽銀行	代表取締役頭取	寺門 一義	水戸市南町2丁目5番5号
22	新熱工業株式会社	代表取締役社長	大谷 直子	ひたちなか市山崎141－5
23	スガノ農機株式会社	代表取締役社長	菅野 充八	稲敷郡美浦村間野天神台300
24	助川電気工業株式会社	代表取締役社長	小瀧 理	高萩市上手綱3333－23
25	鈴縫工業株式会社	代表取締役社長	鈴木 一良	日立市城南町1丁目11番31号
26	関彰商事株式会社	代表取締役社長	関 正樹	つくば市二の宮1－23－6

27	株式会社染めQテクノロジー	代表取締役社長	菱木 貞夫	猿島郡五霞町元栗橋5971番地31
28	株式会社タイショー	代表取締役	矢口 重行	水戸市元吉田町1027
29	タカノフーズ株式会社	取締役会長	高野 英一	小美玉市野田1542
30	株式会社タナカ	代表取締役社長	田中 司郎	土浦市藤沢3495-1
31	株式会社タンガロイ	代表取締役社長	木下 聡	福島県いわき市好間工業団地11番地1
32	株式会社長寿荘	代表取締役社長	海野 泰司	ひたちなか市大平1丁目22番1
33	株式会社筑波銀行	代表取締役頭取	藤川 雅海	つくば市竹園1丁目7番地
34	株式会社ティー・エム・ピー	代表取締役社長	高橋 一雄	日立市大和田町645
35	株式会社東京電機	代表取締役社長	塩谷 智彦	つくば市桜3丁目11番地1
36	中川ヒューム管工業株式会社	代表取締役社長	中川 喜久治	土浦市真鍋1丁目16番11号延増第3ビル8階
37	株式会社中村自工深川製作所	代表取締役社長	新井 正次	高萩市赤浜412
38	日東電気株式会社	代表取締役社長	阿部 真也	東茨城郡茨城町長岡3268
39	日本エクシード株式会社	代表取締役社長	高山 直紀	常総市内守谷町4382-4
40	株式会社野上技研	代表取締役	野上 良太	常陸大宮市泉1136番地3
41	株式会社坂東太郎	代表取締役会長	青谷 洋治	古河市高野540-3
42	株式会社東日本技術研究所	代表取締役	鈴木 茂夫	日立市大みか町4丁目8番20
43	平沼産業株式会社	代表取締役	平沼 憲一	水戸市元吉田町1739
44	マニー株式会社	代表執行役社長	高井 壽秀	宇都宮市清原団地8番3
45	水戸信用金庫	理事長	塙 由博	水戸市城南2丁目2番21号
46	メークス株式会社	代表取締役社長	森山 慶一	守谷市中央4丁目10番9
47	株式会社諸岡	代表取締役	諸岡 正美	龍ヶ崎市庄兵衛新田町358

【実施した効果や今後の対応について】

- ・現在のパートナー企業の方々との連携を強めると共に、今後も大学のパートナーとして、さまざまにお力をお貸しくださる企業さまにお願いをしていく。

イベントへの出展

茨城大学の教育及び研究資産を社会に還元する活動として、本学教員の研究成果を発表するため、各種イベントへ出展している。

イベントの名称	記載日程・場所	出展の概要
・「知」の集積と活用 の場 産学官連携協 議会<ポスターセッ ション>	・28年5月26日 ・東京・農林水産省 本館 7階 講堂	・農林水産省「知」の集積と活用 の場 産学官連携協議会主催 ・農林水産・食品分野において、 新たな商品化・事業化に向けて 共通課題に取り組む研究開発 プラットフォームの形成を促進 することを目的として開催。 ・農学部安江教授と豊田准教授 が分野「健康長寿社会の実現 に向けた健康増進産業の創出」 で研究成果を発表。
・首都圏北部4大学連 合(4u)による「新技術 説明会」(1回目)	・28年6月2日 ・東京・市ヶ谷(JST 東京本 部別館ホール)	・科学技術振興機構(JST)、4大 学連合(4u) 主催 ・本学、宇都宮大学、群馬大学、 埼玉大学の4大学の教員が、 出願済特許に基づく研究成果 を発表(1回目)。 ・4大学合わせて9件、本学から は、2件(工学部：山内教授、 横田准教授)発表。
・茨城県産学官合同成 果発表会	・28年7月6日 ・茨城県工業技術センタ ー	・茨城県工業技術センター主催 共催：県内産業支援機関 4 機関、本学、筑波大学 ・県内の大学を含む産業支援 機関の利用促進を目的とした 合同発表会 ・本学からは、窓口となる社 会連携センターの活動紹介 ならびに企業との連携事例を 発表。
・県内中小企業向け研 究シーズ発表会	・28年8月23日 ・本学日立キャンパス	・茨城県中小企業振興公社との 共催による研究成果発表。 ・(理工)西野准教授による、 自動車関連部品の最新動向 についての講演 ・企業35社(39名)が参加。
・イノベーションジャ パン 2016	・28年8月25～26日 ・東京ビックサイト	・JST、NEDO 主催による国内 最大規模の産学イベント ・本学からは、3件出展((農) 朝山教授、(工)鵜野准教授、 (理工)佐藤准教授)。 ・開催中、今後の発展が見込 まれる相談対応：10件

イベントの名称	記載日程・場所	出展の概要
・しんきんビジネスフェア 2016	・28 年 9 月 14 日 ・つくばカピオ	・水戸信、結城信、茨城県信用金庫主催で総勢188社が出展。本学は社会連携センターが出展。
・首都圏北部 4 大学連合(4u)による「新技術説明会」(2回目)	・28 年 9 月 27 日 ・東京・市ヶ谷(JST 東京本部別館ホール)	・科学技術振興機構(JST)、4大学連合(4u) 主催による各大学の出願済特許に基づく研究成果発表(2 回目)。 ・4大学合わせて8件、本学からは、2件(工学部：鶴野准教授、(理工)佐藤准教授)発表。
・2016 筑波銀行ビジネス交流商談会	・28 年 10 月 19 日 ・つくば国際会議場	・筑波銀行主催、食、ものづくりなどの企業、自治体、研究機関等(計223)による合同イベントに参加。本学は社会連携センターとしてブース出展。
・名工大テクノフェア 2016	・28 年 11 月 2 日 ・名古屋工業大学	・経済産業省中部経済産業局ほか39の自治体・団体・企業が後援し、合計54のブースが出展。 ・本年度のテーマは、「【長寿工学】健康長寿産業を支える技術～若者からお年寄りまで～」。 ・本学は、筑波大学コンソーシアム5機関と共に外部機関として参加し、ブースを出展。 ・パネル展示のほか、特別講演・パネルディスカッションが開催された。
・国内地域ものづくり技術連携交流会	・28 年 11 月 18 日 ・いわき産業創造館	・いわき地域企業15社、大学等4機関がブース展示。 ・商談会を同時開催、参加企業・団体は8社。 ・本学は(株)エコハイテック・コーポレーション、(株)バーチャル・ハーモニーの2社と面談、後日農学部及び工学部との技術相談へ展開。
・ひたちものづくりフォーラム 2016	・28 年 11 月 30 日 ・ホテル天地閣	・ひたちものづくり協議会主催 ・光和精機製作所社長による基調講演(演題)「ものづくり企業の連携と地域のかかわり」、地元企業経営者 3 名、学生 1 名、モデレーター 1 名による、ぴたっとラジオン実演会「そうだ、ここで働こう!!」 ・企業、官公庁、大学、学生等 73 名が参加
・首都圏北部 4 大学連合(4u)によるキャンバン方式での新技術説明会(1 回目)	・28 年 12 月 13 日 ・群馬県桐生商工会議所	・本学、宇都宮、群馬、埼玉の4大学連合(4u)主催 ・群馬大学が当番校となり、桐生市の企業向けに、合わせて4件の研究内容を紹介。本学からは、2件((工)矢内准教授、住谷助教)発表。

イベントの名称	記載日程・場所	出展の概要
・茨城ものづくり企業交流会 2017	・29 年 2 月 2 日 ・水戸プラザホテル	・茨城県経営者協会主催。 ・県内5金融機関、および茨城県内企業等約100社がブースを出展。今回は本学からの出展はなし。 ・ものづくり企業の技術や就職の糸口を探る場として、高校生なども多数参加。
・首都圏北部 4 大学連合(4u)によるキャラバン方式での新技術説明会(2 回目)	・29 年 2 月 17 日 ・埼玉県朝霞市	・本学、宇都宮、群馬、埼玉の 4 大学連合(4u)主催 ・宇都宮大学が当番校となり、朝霞市の企業向けに、合わせて 4 件の研究内容を紹介。本学からはスケジュールが合わず 0 件であったが、4 月以降に再度実施予定。
・めぶき FG ものづくり企業フォーラム 2017	・29 年 2 月 22 日 ・つくば国際会議場	・常陽銀行・常陽産業研究所主催 ・本学は社会連携センター、および工学部塑性加工コンソーシアム(9研究室)が出展 ・同フォーラムは255組織が参加する北関東最大級のイベント

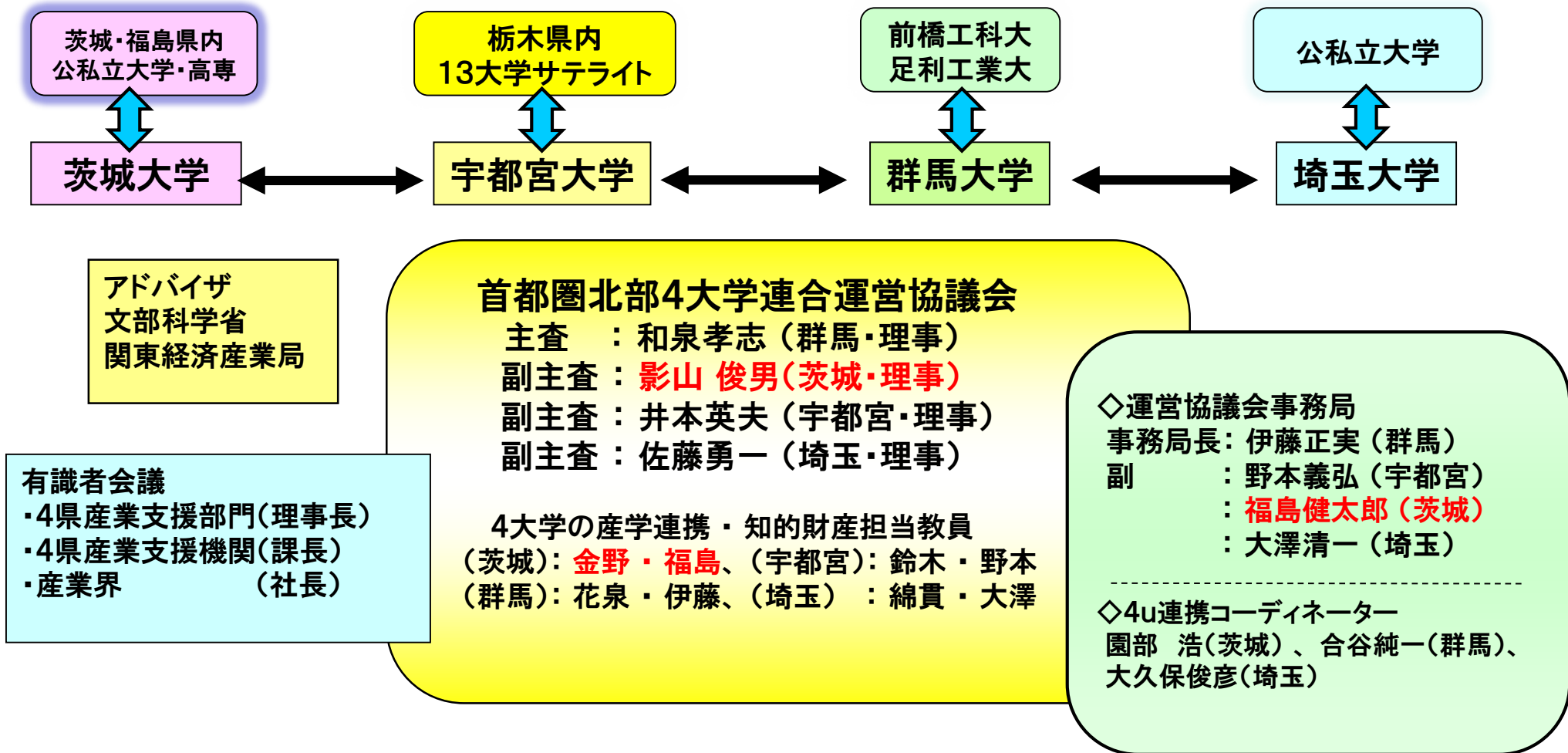
【実施した効果や今後の対応について】

- ・今後も積極的に各種イベントへの出展等を行い、社会に向けて茨城大学の研究成果・シーズを発表する。
- ・出展の機会などにコーディネーターが連携して活動を行い、情報等を本学に持ち帰って共同研究等への発展を図る。

首都圏北部4大学連合(4u)のご紹介

(茨城大学・宇都宮大学・群馬大学・埼玉大学)

特色ある4uの産学官連携の推進体制 (平成28年度)



平成28年度の活動計画

- ・新技術説明会 (JSTとの共催) の開催
- ・新技術説明会キャラバン隊の開催
- ・広域の技術相談ネットワークの維持
- ・シーズ集を活用した企業アンケート調査
- ・4uホームページに掲載されている技術シーズ集“4u”の改定
- ・事務局会議の開催

企業・産業界・地域

◆ 4u事務局、4u連携コーディネーター紹介



宇都宮大学
鈴木教授 野本准教授



埼玉大学
大澤教授 大久保CD



群馬大学
伊藤教授 合谷CD



合谷CD



茨城大学
福島特命教授



園部CD

H28 年度 4u 活動内容

●イベント開催

イベントの名称	記載日程・場所	出展の概要
・首都圏北部 4 大学連合(4u)による「新技術説明会」(1 回目)	・28 年 6 月 2 日 ・東京・市ヶ谷(JST 東京本部別館ホール)	・科学技術振興機構(JST)、4大学連合(4u) 主催 ・本学、宇都宮大学、群馬大学、埼玉大学の 4 大学の教員が、出願済特許に基づく研究成果を発表(1 回目)。 ・4大学合わせて9件、本学からは、2件(工学部：山内教授、横田准教授)発表。 成果：山内先生－村田製作所 共同研究可否検討のためのNDA締結(サンプル試作検討中)
・首都圏北部 4 大学連合(4u)による「新技術説明会」(2回目)	・28 年 9 月 27 日 ・東京・市ヶ谷(JST 東京本部別館ホール)	・科学技術振興機構(JST)、4大学連合(4u) 主催による各大学の出願済特許に基づく研究成果発表(2 回目)。 ・4大学合わせて8件、本学からは、2件(工学部：鵜野准教授、(理工)佐藤准教授)発表。 成果：鵜野先生－ウインテスト(株) 共同研究契約成立(H29.3.1～H30.3.31 200 万円)
・首都圏北部 4 大学連合(4u)によるキャラバン方式での新技術説明会(1 回目)	・28 年 12 月 13 日 ・群馬県桐生商工会議所	・本学、宇都宮、群馬、埼玉の 4 大学連合(4u)主催 ・群馬大学が当番校となり、桐生市の企業向けに、合わせて 4 件の研究内容を紹介。本学からは、2 件((工)矢内准教授、住谷助教)発表。 成果：現時点において無し
・首都圏北部 4 大学連合(4u)によるキャラバン方式での新技術説明会(2 回目)	・29 年 2 月 17 日 ・埼玉県朝霞市	・本学、宇都宮、群馬、埼玉の 4 大学連合(4u)主催 ・宇都宮大学が当番校となり、朝霞市の企業向けに、合わせて 4 件の研究内容を紹介。本学からはスケジュールが合わず 0 件であったが、4 月以降に再度実施予定。

●その他

- ・広域技術相談ネットワーク

群馬大経由技術相談対応 3 件(うち 1 件、共同研究へ発展する見込み)

- ・4u シーズ集 メンテナンス(人、役職、内容)

共同研究受入数(H25～H28)

資 料 23

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数(件)	172	163	161	181
下段()は新規分	(108)	(90)	(104)	(113)
金額(千円)	88,416	82,681	94,203	121,682
下段()は新規分	(78,031)	(62,499)	(82,038)	(98,819)

企業分類による内訳

○受入件数

共同研究件数(件)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
県内大企業	17	16	15	19
中小企業	51	50	43	42
県外大企業	47	44	47	51
中小企業	16	11	9	13
その他	41	42	47	56
計	172	163	161	181

○受入金額

共同研究受入金額 (千円)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
県内大企業	14,318	12,120	8,850	16,054
中小企業	14,943	7,516	9,430	12,688
県外大企業	38,469	34,833	50,579	58,227
中小企業	4,505	1,811	1,670	3,658
その他	16,181	26,401	23,674	31,055
計	88,416	82,681	94,203	121,682

- ・県内外に事業所がある企業は、契約した事業所の所在地により区分
- ・「その他」について：他の国立大学法人、国立研究開発法人、独立行政法人、地方公共団体や公益財団法人等

平成28年度においては、共同研究の受入件数及び金額共に増加している。
特に増加がみられるのは、その他の国立研究開発法人等との共同研究であり、本学教員が、当該法人の実施する公募型の共同研究に応募し、採択されたこと、また、国のプロジェクトに応募するため、国立研究開発法人等と連携し、研究基盤強化のための共同研究を実施したことが要因となっている。
また、県内の大企業にも増加がみられ、大学が進める「組織対組織の共同研究」により締結した日立オートモティブシステムズ(株)との連携協定に基づく共同研究、企業訪問(47社)を行った企業(タカノフーズ(株))との共同研究等が要因となっている。
県外の大企業、中小企業にも増加がみられるが、JST新技術説明会での研究発表が要因となっている。

【実施した効果や今後の対応について】

- ・今年度は、教員が公募型の共同研究に積極的に取り組んだこと、大学が「組織体組織の共同研究」等の取り組みを行ったこと、新技術説明会等のイベントでの研究発表により、共同研究の件数、金額共に増加がみられた。
- ・来年度は、共同研究に至ったきっかけ（イベントでの研究発表、ホームページ、学会発表等）を調査し、どのような取り組みが共同研究の増に繋がるか分析し、今後の産学連携活動への活用を図ることとする。

茨城大学と日立オートモティブシステムズ株式会社との連携事業実施協定

平成28年8月8日、本学と日立オートモティブシステムズ株式会社（以後、日立AMSという）は、相互の発展に資するとともに、地域の発展と産業の振興に寄与することを目的として連携事業実施協定を締結した。次世代自動車向け新技術の創出と産業競争力の向上による地域創生のために、双方が保有する研究課題の共有とその課題の開発のための共同研究・共同事業を行うほか、学生教育や研究者の派遣を通じて学術交流と人材育成を促進する。

○連携事業内容

- 1) 共同研究及び委託研究等の研究活動とそのための協力及び支援
- 2) 研究者や学生の派遣を含む学術交流と人材育成の推進
- 3) その他本協定の目的に資する事業

〈具体的な連携〉

- ・ 次世代自動車向け運転技術開発等に関する共同研究
- ・ インターンシップ（海外拠点への派遣を含む）
- ・ 社会人学生（ドクター）の受け入れ
- ・ 連携大学院
- ・ その他

現在、2件の共同研究が進んでいる。うち1件は、特許を出願する予定である。

平成28年12月22日、新たな共同研究テーマの発掘のため、第2回日立AMS・茨城大学共同研究ワークショップを開催した。

日立AMSから、「自動運転技術」「自動車燃費向上技術」などの次世代モビリティ技術に関連する最新動向の説明があり、機械工学、情報通信、エレクトロニクス、交通工学、都市計画、心理学等、理系・文系の枠を超えた幅広い分野の技術について、共同研究テーマの募集があった。

平成29年1月末、新たな共同研究案として5件の提案を行った。

【実施した効果や今後の対応について】

- ・ 平成28年8月に協定締結後、2件の共同研究を進め、緊密な連携関係のもと短期集中的に研究が進捗したことにより、1件の特許出願をすることに至った。
- ・ 平成29年1月末、新たな共同研究案として茨城大学から5件の提案があり、日立AMSから2件の採択があった。平成29年度は、4件の共同研究が開始される。
- ・ 来年度に向けて新たな連携として日立AMSの海外拠点へのインターンシップ、社会人学生（ドクター）の受け入れ、連携大学院の設置等について協議中である。

2016年8月31日

国立大学法人茨城大学

日立オートモティブシステムズ株式会社

**茨城大学と日立オートモティブシステムズが
「連携事業実施協定」を締結し、自動運転関連技術の共同研究を推進**



8月8日 連携事業実施協定調印式(左:三村学長、右:関社長)

国立大学法人茨城大学(学長:三村 信男/以下、茨城大学)と日立オートモティブシステムズ株式会社(社長執行役員&CEO:関 秀明/以下、日立オートモティブシステムズ)はこのたび、相互の発展や地域の発展と産業の振興に寄与することを目的に、茨城県の協力のもと、両者による連携事業を包括的に推進する「連携事業実施協定」を締結しました。本包括協定を通じて、茨城大学と日立オートモティブシステムズは、自動運転関連技術をはじめとした共同研究や学術交流、さらには人的交流やグローバル規模でのインターンシップの受け入れ、人材育成などを推進していくことにより、次世代ビークルに向けた新技術の創出や産業競争力の向上による茨城県の地域創生にも貢献していきます。

茨城大学と日立オートモティブシステムズは、これまでも基礎技術に関する共同研究を行ってきましたが、今後は本実施協定を通じてさらに連携を拡大し、自動運転関連技術における応用技術などにおよぶ広範囲な共同研究を行っていきます。まず2016年度は、自動運転の主要技術となる周辺認識技術において、ミリ波レーダーやカメラなどの車載用センサーに関する共同研究を行います。また、以降も革新的なテーマを設定し、戦略的な共同研究を実行していきます。そのために茨城大学では、大学の重点研究として「次世代モビリティ基盤技術研究プロジェクト」を立ち上げました。今後、社会的機能も含めた基盤技術の研究を活かし、日立オートモティブシステムズの自動走行システムをはじめとする次世代ビークルの中核技術の向上をめざします。

さらに共同研究に留まらず、次世代ビークル産業を支える人材の育成面でも連携を強化します。茨城大学から日立オートモティブシステムズへのインターンシップについて、受け入れ現場を海外にも拡充す

ることで、グローバルに活躍できる人材の育成を両者で進めるほか、大学における講座の共同開講や講師派遣、社会人博士課程学生の受け入れの加速化などを進めていく予定です。

なお、このたびの連携は、地域に根ざしながらグローバル規模の共同研究と人材育成を進める点で、茨城県の地域創生にもつながるものです。茨城大学は2008年に茨城県と包括的な連携協定を締結しています。茨城県ひたちなか市の佐和事業所を本店とする日立オートモティブシステムズも、茨城県による事業支援プログラム「いばらき近未来技術実証推進事業」により、2016年2月に常陸那珂有料道路において自動走行システムの走行実証試験を実施し、また、同年8月には佐和事業所の敷地内で開発試験棟の建設に着工するなど、茨城県からの多大な支援を受けています。

今回の実施協定も、茨城県の協力によって実現したものであり、今後は連携を一層強化することにより、茨城県を拠点とした次世代モビリティ社会の実現をめざして、産学官連携の下に、新技術の創出と地域創生を推進していきます。

■会社概要

日立オートモティブシステムズ株式会社

本 社： 東京都千代田区大手町二丁目 2 番 1 号 新大手町ビル

事業内容： 自動車部品および産業用機械器具・システムの開発、製造、販売およびサービス

■大学概要

国立大学法人茨城大学

本 部： 茨城県水戸市文京二丁目1-1(水戸キャンパス)

人文・教育・理・工・農の5つの学部と、人文・教育・理工・農の大学院研究科を有し、学部学生 7,200 名、大学院生 1,100 名が学ぶ総合大学

■報道機関お問い合わせ先

日立オートモティブシステムズ株式会社 経営戦略本部 広報・宣伝部〔担当:前島、塚原〕

〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目 2 番 1 号 新大手町ビル

TEL:050-3000-1921

国立大学法人茨城大学 広報室〔担当:山崎〕

〒310-0845 茨城県水戸市文京二丁目1-1 茨城大学水戸キャンパス内

TEL: 029-228-8008 FAX: 029-228-8019 メール:koho-prg@ml.ibaraki.ac.jp

以上

【茨城大学】ホームカミングデーを開催 160 人が参加

茨城大学は、11月12日（土）、「茨城大学ホームカミングデー2016」を水戸キャンパスで開催した。約160人が参加し、学園祭開催中の思い出のキャンパスで旧交を温めた。

今年は「茨城大学基金」が立ち上がってから初めてのホームカミングデー開催となり、式典においては茨城大学同窓会連合会から同基金へ寄附金の贈呈も行われた。冒頭で挨拶した三村信男学長は、学部・教育編成の改組、学生の活躍、グローバル化、産学連携といった大学改革の具体的なポイントを紹介した上で、「同窓生や地域の方々に志を理解してもらって、社会の支援のもとで改革を進めていきたい」と述べた。

また、今年のホームカミングデーでは、20代～30代の若手の卒業生たちにも企画段階から協力を得た。司会を担当したのは、教育学部の卒業生である NHK 水戸放送局の金田優香キャスター。金田さんは「こうした形で母校に関われることが嬉しい」と述べ、スムーズな進行によって場を盛り上げた。また、いずれも20代で起業した、人文学部卒業生で株式会社商輪代表の黄磊さん、工学部卒業生で株式会社ユニキャスト代表の三ツ堀裕太さんも登壇し、大学時代の思い出を語るとともに、同大との連携事業について紹介した。

その他、10年ぶりに箱根駅伝の予選会への出場を果たした陸上競技部など、多方面で活躍している現役学生たちへのインタビュー企画等もあり、食事を囲みながら終始和やかな雰囲気で行った。最後は参加者全員による校歌斉唱と記念撮影を行い、今年のホームカミングデーを終えた。



参加者全員での記念撮影

【実施した効果や今後の対応について】

- ・ 茨苑祭 1 日目に合わせ、茨城大学同窓会連合会の総会後に開くことが定着してきている。
- ・ 来年度は新たな来場者層を開拓し、参加者の増加を目指す。

茨城大学ホームカミングデー2016 プログラム

平成 28 年 11 月 12 日（土）



- 1 時 間： 11 時 30 分 ～ 13 時 00 分
- 2 会 場： 水戸キャンパス福利センター（大学生協食堂）
- 3 司 会： NHK 水戸放送局 キャスター 金田優香
- 4 次 第：
 - I. 開会挨拶、大学の近況について
【茨城大学長 三村信男】
 - II. 来賓挨拶
【茨城県副知事 山口やちゑ 様】
 - III. 社会で活躍する茨大卒業生
【株式会社商輪 代表取締役 黄磊 様】
【株式会社ユニキャスト 代表取締役 三ツ堀裕太 様】
 - IV. 同窓会連合会から茨城大学基金への寄附金贈呈
 - V. 乾杯
【茨城大学同窓会連合会会長 土田惣一 様】
 - VI. ランチパーティー
 - VII. 運動部の活躍紹介
【ラグビー部 山田浩樹 （人文学部 4 年）】
【バドミントン部 原啓二郎 （農学部 3 年）】
【陸上競技部 小野隼太 （理学部 3 年）】
 - VIII. 校歌斉唱
【混声合唱団】
 - IX. 閉会挨拶
【茨城大学理事・社会連携センター長 影山俊男】
 - X. 記念撮影
【参加者全員】



平成28年度 社会連携センター年間活動

※日常業務を除き、企画や事業を中心に主なものを掲載しています。

社会連携センター

日程 \ 事項		社会連携課・COCの事業	事業推進課の事業	産学連携課の事業
4月	上旬	4月6日(水)入学式		
		4月7日(木)「社会連携センターキックオフ2016」実施		
	中旬	4月12日(火)「茨城学」開始(7月まで)		
		4月13日(水) 「地域連携プロジェクト公募開始」 締切:【教育】4月28日 【研究・人材】5月2日		
	下旬			
5月	上旬			
	中旬			
	下旬	5月23日(月)「学生地域参画プロジェクト募集開始」 締切:6月3日(金)	5月23日(月)「日本ジオパークネットワーク通常総会」参加	5月26日(木) 「知」の集積と活用 の場 産学官連携協議会<ポスターセッション>参加
		5月24日(火)【研究】「地域連携プロジェクト採択決定」		5月31日(火) [首都圏北部4大学連合運営協議会]参加
		5月27日(金)【人材】「地域連携プロジェクト採択決定」		
6月	上旬	6月1日(水)「戦略的地域連携プロジェクト事業開始」 6月1日(水)「鹿島アントラーズとの意見交換会」開催		6月2日(木) 首都圏北部4大学連合(4u)による「新技術説明会」(1回目)参加 JST東京本部別館ホール
	中旬	6月12日(日)「水戸ホーリーホック 無料観戦試合」招待		
	下旬	6月25日(土) 「いばらき子ども大学」開催(～2月18日)		
		6月30日(木)「学生地域参画プロジェクト採択決定」		
7月	上旬	7月1日(金)第1回「県北研究会」開催 7月1日(金)「学生地域参画プロジェクト事業開始」		7月6日(水) 「茨城県産学官合同成果発表会」参加
	中旬	7月15日(金)COC:「地(知)の拠点シンポジウム」開催		
	下旬	7月20日(水)「地域おこし協力隊意見交換会」開催	7月21日(木)「日本ジオパークネットワーク事務局長会議」参加	
		7月25日(水)社会教育主事講習開始(8月24日まで)		
8月	上旬	8月6日(土)水戸「黄門まつり」参加		8月8日(月) 「連携協定調印式(日立AMSとの締結)」実施
	中旬			
	下旬	8月21日(日)「リソース研修会」開催(9/24、9/26、9/28)	8月29日(月)茨城県「ジオパーク第1回運営委員会」開催	8月23日(火) 「県内中小企業向け研究シーズ発表会」開催
		「社会教育主事講習会」終了	8月29日(月)「茨城県北ジオパーク推進協議会総会」開催	8月24日(水) 講演会「次世代モビリティ技術の世界動向」開催
			8月31日(水)茨城県北ビジネスコンペ2015優秀賞受賞「ジオ井」県知事表敬訪問	8月25日(木)26日(金) 「イノベーションジャパン2016」参加
				8月31日(水) 「日立AMSとの連携協定」報道発表
9月	上旬	9月3日(土)「国際岡倉天心シンポジウム2016」	9月4日(日)県北芸術祭関連連プロジェクト「時の回廊展」開催(～10月30日)	
		9月4日(日)「五浦探訪」開催		
	中旬	社会連携センター茨城大学生インターンシップ受入実施		9月14日(水) 「しんきんビジネスフェア2016」参加
		9月17日(土)KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭開催(～11月20日)		
	下旬	9月24日(土)26日(月)28日(水) 「リソース研修会」開催		
		9月30日(金)「茨苑会館食堂改装オープニングセレモニー」開催		9月27日(水) 首都圏北部4大学連合(4u)による「新技術説明会」(2回目) 参加 JST東京本部別館ホール
10月	上旬	10月4日(火)第2回「県北研究会」開催	10月1日(土)「五浦日本画塾」開催	
		10月4日(火)「茨城学」開始(2月まで)	10月5日(水)「第1回再認定課題検討タスクフォース」開催	
			10月10日(月)「日本ジオパークネットワーク全国大会(伊豆半島)」参加	
	中旬	10月15日(土)・16日(日) 「関東近県生涯学習・社会教育実践交流会」開催		10月19日(水) 「2016筑波銀行ビジネス交流商談会」参加
	下旬		10月29日(土)30日(日)「観月会2016」五浦美術文化研究所開催	
11月	上旬		11月1日(金)「第2回再認定課題検討タスクフォース」開催	11月2日(水) 「名工大テクノフェア2016」参加
	中旬	11月16日(金)第3回「県北研究会」開催	11月12日(土)「茨城大学同窓会連合会総会」開催、「ホームカミングデー」開催	11月18日(金) 「国内地域ものづくり技術連携交流会」参加
	下旬		11月20日(日)「JGN関東ブロック下仁田大会」出展	11月30日(水) 「私たちのづくりサロン年次総会」参加 「私たちのづくりフォーラム2016」開催
12月	上旬	12月5日(月)「阿見町との定期協議会」開催	12月1日(木)「第3回再認定課題検討タスクフォース」開催	
		12月9日(金)「茨城大学、茨城産業会議、茨城県との連携事業:三者連携講演会」開催	12月10日(土)「日本ジオパークネットワーク現地審査員研修会」参加	
	中旬	12月17日(土)水戸ホーリーホック:土曜アカデミー 「フットボールカフェ」開催		12月13日(火) 首都圏北部4大学連合(4u)によるキャラバン方式での新技術説明会(1回目) 参加
	下旬	12月20日(火)「工学部研究室訪問交流会」開催		
		12月21日(水) 「自治体との実務者間意見交換会」・「学生地域活動発表会2016(はばたく!茨大生)」開催		12月22日(木)「日立AMSとのワークショップ」開催
1月	上旬		1月6日(金)「第4回再認定課題検討タスクフォース」開催	
	中旬	1月18日(水) 「新聞マルシェワークショップ」開催		
	下旬	1月27日(金)「地域おこし協力隊リーグ&第4回県北研究会」開催	1月26日(木)「茨城県北ジオパーク第2回運営委員会」開催	
2月	上旬	2月3日(金)「地方創生セミナー」開催	2月4日(土)「日本ジオパークネットワーク ジオパークフェア(有楽町)」出展	
		2月6日(月)「茨城産業会議との実務者会議」開催		
	中旬			2月17日(金) 首都圏北部4大学連合(4u)によるキャラバン方式での新技術説明会(2回目) 参加
	下旬	2月20日(月)「学生地域参画プロジェクト実施報告会」開催		2月22日(水) 「めぶきFGものづくり企業フォーラム2017」参加
3月	上旬	3月1日(水)第5回「県北研究会」開催		
		3月3日(金)「理学部研究室訪問交流会」開催		
	中旬	3月15日(水)「産学金連携シンポジウム・懇親会」開催	3月10日(金)～12日(日)「日本ジオパークネットワーク全国研修会(Mine秋吉台)」参加	3月17日(金) 「首都圏北部4大学連合運営協議会」参加
	下旬	3月22日(水)「COC外部評価委員会及び社会連携センターアドバイザリーボード会議」開催	3月21日(火)第3回IP自主講座「ジオパークの保全」(研修室)開催	3月28日(火) 「日立AMSとの連絡協議会」開催
		3月23日(木)卒業式		
		3月27日(月)「茨城産業会議との代表者会議」開催		